

学校コード F140310110641

注3

設置年度 令和 4年度

計画の区分： 研究科の設置

注1

認可

注2

九州共立大学大学院 経済・経営学研究科 経済・経営学専攻 (必要がある場合) ○○専攻

【認可】 設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人福原学園

令和4年5月1日現在

作成担当者	
担当部局(課)名	総務課
職名・氏名	ソウムカチョウ イノウエ コウイチ 総務課長 井上 功一
電話番号	093-693-3005
(夜間)	093-693-3005
e-mail	soumu@kyukyo-u.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「○○大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に

() 書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) ○○大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・大学の設置の場合：「○○大学」
- ・学部の設置の場合：「○○大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「○○大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「○○短期大学 △△学科」
- ・大学院設置の場合：「○○大学大学院」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「○○大学大学院 ○○研究科」
- ・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「○○大学大学院 ○○研究科 ○○専攻(修士課程)」
- ・通信教育課程の開設の場合：「○○大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、当該番号を記載してください。

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html

目次

経済・経営学研究科

＜経済・経営学専攻＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	10
4. 既設大学等の状況	11
5. 教員組織の状況	13
6. 附帯事項等に対する履行状況等	20
7. その他全般的事項	22

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人福原学園

(2) 大学名

九州共立大学大学院

(3) 調査対象大学等の位置

〒807-8585

福岡県北九州市八幡西区自由ヶ丘1番8号

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(フクハラ キミコ) 福原 公子 (平成27年6月)	—	—
学長	(オクダ トシヒロ) 奥田 俊博 (平成27年6月)	—	—
研究科長	(カン チョウセイ) 甘 長青 (令和4年4月)	—	—
学科長等	—	—	—

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。
(例) 令和3年度に報告済の内容 → (3)
令和4年度に報告する内容 → (4)
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部や学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください（作成方法は、事務連絡「令和4年度の履行状況報告書の提出について（依頼）」を確認してください）。
- ・ 様式は、平成30年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合（令和4年度までの5年間）ですが、完成年度を越えている場合は別途ご連絡ください。
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) -① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
経済・経営学研究科 経済・経営学専攻 修士（経済学）	経済学関係	2 年	5 人	- 人	10 人		経済・経営学科

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1）」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。

(5) -② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	- 人 (-) [-]	- 人 (-) [-]	- 人 (-) [-]	- 人 (-) [-]	- 人 (-) [-]	- 人 (-) [-]	- 人 (-) [-]	- 人 (-) [-]	- 人 (-) [-]	- 人 (-) [-]	2.60倍	- 倍	
志願者数	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	13 (-) [9]	() () []			
受験者数	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	13 (-) [9]	() () []			
合格者数	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	13 (-) [9]	() () []			
B 入学者数	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	- (-) [-]	13 (-) [9]	() () []			
入学定員超過率 B/A									2.60				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出して下さい。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度（令和4年度）から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	13 [9] (-)	- [-] (-)	
2 年次	/		- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	
3 年次			/		- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)
4 年次	/				- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)
計			- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	- [-] (-)	13 [9] (-)	

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	人	人	平成30年度	人	人	
令和元年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
令和2年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
令和3年度	人	人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
令和4年度	13人	0人	平成30年度	人	人	
			令和元年度	人	人	
			令和2年度	人	人	
			令和3年度	人	人	
			令和4年度	0人	0人	
合計		0人		人	人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) - ⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{13} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<経済・経営学研究科 経済・経営学専攻>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	経済・経営学研究概論A	1前	2			1		1				
	経済・経営学研究概論B	1前	2			1		1				
	財政学特論	1前		2		1						
	証券経済特論	1前		2			1					
	国際経済特論	1前		2		1						
	国際通貨金融特論	1前		2		1						
	経営管理特論	1前		2		1						
	財務会計特論	1前		2		1						
	租税特論	1後		2		1						
	ファイナンス特論	1後		2			1					
	財務分析特論	1後		2		1						
	多国籍企業特論	1後		2		1						
	地域公共政策特論	1後		2		1						
	マーケティング特論	1後		2				1				
	東アジア経済関係特論	2前		2		1						
	地域産業政策特論	2前		2		1						
	管理会計特論	2前		2		1						
	税務会計特論	2前		2		1						
	中小企業会計特論	2後		2				1				
小計(19科目)	-	4	34	0	8	1	2	0	0			
修了研究科目	修士論文作成指導	1前	2					2				
	修了研究Ⅰ	1前	2			5	1					
	修了研究Ⅱ	1後	2			5	1					
	修了研究Ⅲ	2前	2			5	1					
	修了研究Ⅳ	2後	2			5	1					
小計(5科目)	-	10	0	0	5	1	2	0	0			
合計(24科目)	-	14	34	0	8	1	2	0	0			
卒業要件及び履修方法												
必修科目14単位、選択科目から16単位以上を修得し、かつ、修士論文の審査及び最終試験に合格すること。												

【令和4年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	経済・経営学研究概論A	1前	2			1		1				
	経済・経営学研究概論B	1前	2			1		1				
	財政学特論	1前		2		1						
	証券経済特論	1前		2			1					
	国際経済特論	1前		2		1						
	国際通貨金融特論	1前		2		1						
	経営管理特論	1前		2		1						
	財務会計特論	1前		2		1						
	租税特論	1後		2		1						
	ファイナンス特論	1後		2			1					
	財務分析特論	1後		2		1						
	多国籍企業特論	1後		2		1						
	地域公共政策特論	1後		2		1						
	マーケティング特論	1後		2				1				
	東アジア経済関係特論	2前		2		1						
	地域産業政策特論	2前		2		1						
	管理会計特論	2前		2		1						
	税務会計特論	2前		2		1						
	中小企業会計特論	2後		2				1				
小計(19科目)	-	4	34	0	8	1	2	0	0			
修了研究科目	修士論文作成指導	1前	2					2				
	修了研究Ⅰ	1前	2			5	1					
	修了研究Ⅱ	1後	2			5	1					
	修了研究Ⅲ	2前	2			5	1					
	修了研究Ⅳ	2後	2			5	1					
小計(5科目)	-	10	0	0	5	1	2	0	0			
合計(24科目)	-	14	34	0	8	1	2	0	0			
卒業要件及び履修方法												
必修科目14単位、選択科目から16単位以上を修得し、かつ、修士論文の審査及び最終試験に合格すること。												

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和4年度】

特になし。

- (注) ・ 2(1)① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
7 科目	17 科目	0 科目	24 科目	7 科目 [0]	17 科目 [0]	0 科目 [0]	24 科目 [0]	

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

--

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{24} = \boxed{}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	「その他」の減少は、 土地売却及び市への無 償譲渡及び分筆による 面積減（4）			
	校舎敷地	40,084.53㎡	- ㎡	- ㎡	40,084.53㎡				
	運動場用地	136,313.89㎡	- ㎡	- ㎡	136,313.89㎡				
	小 計	176,398.42㎡	- ㎡	- ㎡	176,398.42㎡				
	そ の 他	377,591.82㎡ 380,240.66㎡	- ㎡	- ㎡	380,240.66㎡				
	合 計	553,990.24㎡ 556,639.08㎡	- ㎡	- ㎡	556,639.08㎡				
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
	36,427.38㎡ (36,427.38㎡)	- ㎡ (- ㎡)	- ㎡ (- ㎡)	36,427.38㎡ (36,427.38㎡)					
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設				
	57室	22室	10室	7室 (補助職員 1人)	- 室 (補助職員 - 人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数					
	経済・経営学研究科 経済・経営学専攻			11 室					
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	該当研究科単位での特 定不能なため、大学・ 大学院全体の数 図書・視聴覚資料の購 入が増えたこと及び学 術雑誌については、学 術リポジトリで閲覧及 びダウンロードが可能 であるため、他大学紀 要を削除したことによ り変更した（4）	
	経済・経営学研究科 経済・経営学専攻	238,754 [52,111] 231,510 [51,988]	2,052 [1,119] 2,309 [1,184]	19 [19] 17 [17]	2,417 2,407	-	-		
		238,754 [52,111] 231,510 [51,988]	2,052 [1,119] 2,309 [1,184]	19 [19] 17 [17]	2,417 2,407	(-)	(-)		
	計	238,754 [52,111] 231,510 [51,988]	2,052 [1,119] 2,309 [1,184]	19 [19] 17 [17]	2,417 2,407	(-)	(-)		
(6) 図 書 館	面 積	閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数					紀要を学術リポジトリ で閲覧可能としたため (4)	
	4,933.31㎡	431	236000 232000						
(7) 体 育 館	面 積	体育館以外のスポーツ施設の概要							
	15,971.02㎡	野球場1面、サブ野球場1面、人工芝サッカー場1面、人工芝ラグビー 場1面、人工芝多目的コート1面、第3種公認陸上競技場1面、投てき場 1面、テニスコート5面、トレーニング室、多目的室内練習場							
(8) 経費の見積り及び 維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	入学者の増加により 机・椅子等の什器を追 加購入したことによる 増（4）
		教員1人当たり研究費等	300千円	300千円	図書購入費	500千円	0千円	0千円	
	共同研究費等	-千円	-千円	設備購入費	4,028千円 3,082千円	0千円	0千円		
	学生1人当たり 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		667千円	557千円	-千円	-千円	-千円	-千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入 等							

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号（その1の1）に準じて作成してください。（複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「（1）校地等」及び「（2）校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。）
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨（所要時間・距離等）を「備考」に記入してください。
 - ・ 「（5）図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和4年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「（4）」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更（校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延）がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「（8）経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	九州共立大学						学生募集停止学科数	0	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	0	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
経済学部	4	430	-	1660	-	1.14	1.04	-	昭和40	-	
経済・経営学科	4	350	-	1300	学士(経済学)	1.26	1.14	令和3	平成21	福岡県北九州市八幡西区自由ヶ丘1-8	定員変更(50)
地域創造学科	4	80	-	360	学士(経済学)	0.74	0.58	令和3	平成21	同上	定員変更(△20)
スポーツ学部	4	250	-	1000	-	1.14	1.13	-	平成18	-	
スポーツ学科	4	250	-	1000	学士(スポーツ)	1.14	1.13	-	平成18	福岡県北九州市八幡西区自由ヶ丘1-8	
大学全体	4	680	-	2660	-	1.14	1.07	-	-	-	
大学の名称	九州共立大学大学院						学生募集停止学科数	0	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	1	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
経済・経営学研究科	2	5	-	10	-	2.60	2.60	-	令和4	-	
経済・経営学専攻	2	5	-	10	修士(経済学)	2.60	2.60	-	令和4	福岡県北九州市八幡西区自由ヶ丘1-1	
スポーツ学研究科	2	5	-	10	-	1.10	0.80	-	平成30	-	
スポーツ学専攻	2	5	-	10	修士(スポーツ)	1.10	0.80	-	平成30	福岡県北九州市八幡西区自由ヶ丘1-1	
大学院全体	2	10	-	20	-	1.60	1.70	-	-	-	
大学の名称	九州女子大学						学生募集停止学科数	0	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	1	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
家政学部	4	130	-	520	-	1.01	1.16	-	昭和37	-	
人間生活学科	4	40	-	160	学士(家政学)	1.05	1.12	-	平成13	福岡県北九州市八幡西区自由ヶ丘1-1	
栄養学科	4	90	-	360	学士(家政学)	0.99	1.17	-	平成13	同上	
人間科学学部	4	190	40	840	-	1.08	0.99	-	平成17	-	
人間発達学科	4	190	40	840	-	1.08	0.99	-	平成22	福岡県北九州市八幡西区自由ヶ丘1-1	
人間発達学専攻	4	130	-	520	学士(文学)	0.92	0.74	-	平成22	同上	
人間基礎学専攻	4	60	40	320	学士(文学)	1.42	1.53	-	平成22	同上	
大学全体	4	320	40	1360	-	0.99	1.06	-	-	-	

大学の名称	九州女子短期大学						学生募集停止学科数	0	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	0	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和4年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
子ども健康学科	年	人	年次人	人	短期大学士(教育学)	倍	倍	-	平成23	福岡県北九州市八幡西区自由ヶ丘1-1	
短期大学全体	2	150	-	300	-	0.90	0.88	-	-	-	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学、大学院、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めず。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和4年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<経済・経営学研究科 経済・経営学専攻>

(1) -① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	甘 長青 (52) <令和4年4月> 博士(経済学)
		国際通貨金融特論 東アジア経済関係特論 修了研究Ⅰ 修了研究Ⅱ 修了研究Ⅲ 修了研究Ⅳ
専	教授	李 只香 (62) <令和4年4月> 博士(商学)
		経済・経営学研究概論A 経営管理特論 修了研究Ⅰ 修了研究Ⅱ 修了研究Ⅲ 修了研究Ⅳ
専	教授	水戸 康夫 (62) <令和4年4月> 博士(経済学)
		国際経済特論 多国籍企業特論
専	教授	梅田 勝利 (51) <令和4年4月> 博士(学術)
		財務分析特論 管理会計特論 修了研究Ⅰ 修了研究Ⅱ 修了研究Ⅲ 修了研究Ⅳ

【令和4年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	甘 長青 (53) <令和4年4月> 博士(経済学)
		国際通貨金融特論 東アジア経済関係特論 修了研究Ⅰ 修了研究Ⅱ 修了研究Ⅲ 修了研究Ⅳ
専	教授	李 只香 (63) <令和4年4月> 博士(商学)
		経済・経営学研究概論A 経営管理特論 修了研究Ⅰ 修了研究Ⅱ 修了研究Ⅲ 修了研究Ⅳ
専	教授	水戸 康夫 (63) <令和4年4月> 博士(経済学)
		国際経済特論 多国籍企業特論
専	教授	梅田 勝利 (52) <令和4年4月> 博士(学術)
		財務分析特論 管理会計特論 修了研究Ⅰ 修了研究Ⅱ 修了研究Ⅲ 修了研究Ⅳ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) 〈就任(予定)年月〉 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	石川 達哉 (63) 〈令和4年4月〉 経済学士
		財政学特論 租税特論 修了研究Ⅰ 修了研究Ⅱ 修了研究Ⅲ 修了研究Ⅳ
専	教授	岡部 勝成 (60) 〈令和4年4月〉 博士(マネジメント)
		経済・経営学研究概論B 財務会計特論 税務会計特論 修了研究Ⅰ 修了研究Ⅱ 修了研究Ⅲ 修了研究Ⅳ
専	教授	岩本 直 (56) 〈令和4年4月〉 博士(工学)
		地域公共政策特論 地域産業政策特論
専	准教授	末木 将史 (57) 〈令和4年4月〉 博士(経済学)
		証券経済特論 ファイナンス特論 修了研究Ⅰ 修了研究Ⅱ 修了研究Ⅲ 修了研究Ⅳ
専	講師	堂野崎 融 (44) 〈令和5年4月〉 修士(社会情報)※
		中小企業会計特論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) 〈就任(予定)年月〉 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	石川 達哉 (64) 〈令和4年4月〉 経済学士
		財政学特論 租税特論 修了研究Ⅰ 修了研究Ⅱ 修了研究Ⅲ 修了研究Ⅳ
専	教授	岡部 勝成 (61) 〈令和4年4月〉 博士(マネジメント)
		経済・経営学研究概論B 財務会計特論 税務会計特論 修了研究Ⅰ 修了研究Ⅱ 修了研究Ⅲ 修了研究Ⅳ
専	教授	岩本 直 (57) 〈令和4年4月〉 博士(工学)
		地域公共政策特論 地域産業政策特論
専	准教授	末木 将史 (58) 〈令和4年4月〉 博士(経済学)
		証券経済特論 ファイナンス特論 修了研究Ⅰ 修了研究Ⅱ 修了研究Ⅲ 修了研究Ⅳ
専	講師	堂野崎 融 (45) 〈令和5年4月〉 修士(社会情報)※
		中小企業会計特論

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) 〈就任(予定)年月〉 保有学位等
		担当授業科目名
専	講師	入江 雅仁 (44) 〈令和4年4月〉 博士(農学)
		経済・経営学研究概論A 経済・経営学研究概論B 修士論文作成指導
専	講師	國崎 歩 (37) 〈令和4年4月〉 博士(経済学)
		修士論文作成指導 マーケティング特論

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 (年齢) 〈就任(予定)年月〉 保有学位等
		担当授業科目名
専	講師	入江 雅仁 (45) 〈令和4年4月〉 博士(農学)
		経済・経営学研究概論A 経済・経営学研究概論B 修士論文作成指導
専	講師	國崎 歩 (38) 〈令和4年4月〉 博士(経済学)
		修士論文作成指導 マーケティング特論

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。**
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
 - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実み)、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和2年度開設であれば令和元年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) 一②担当教員表に関する変更内容

【令和4年度】

・特になし。

- (注)
- ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 - ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（令和2年度開設であれば令和元年度）の表は削除せず、斜線を入れてください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導補助教員数
5	4	4
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第百七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学院】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計（A）	助手（A'）	教授	准教授	講師	助教	計（B）	助手（B'）
7	1	3	0	11	0	7	1	3	0	11	0
(7)	(1)	(3)	(0)	(11)	(0)						
研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数	/			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数	/		
8	0	3				8	0	3			
(8)	(0)	(3)				(8)	(0)	(3)			
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計（C）	助手（C'）	教授	准教授	講師	助教	計（D）	助手（D'）
7	1	3	0	11	0	7	1	3	0	11	0
[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]
研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数	/			研究指導教員数	研究指導補助教員数	講義のみ担当の教員数	/		
8	0	3				8	0	3			
[0]	[0]	[0]				[0]	[0]	[0]			

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、（ ）内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を要済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記（B））の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記（C））の教員のうち、定年を延長して採用する教員数
教授65 その他60	0	0
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二重書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況（C）}}{\text{設置時の計画（A）}} = \frac{11}{11} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況（B）}} = \frac{0}{11} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況（C'）}}{\text{設置時の計画（A'）}} = \frac{0}{0} = \boxed{\#DIV/0!} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
		該当なし								
合計（D）					後任補充状況の集計（E）					
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
		該当なし								
合計（F）					後任補充状況の集計（G）					
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記(3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計（D）+（F）					後任補充状況の集計（E）+（G）					
辞任等した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計(D)+(F)}}{(2) - ② \text{設置時の計画(A)}} = \frac{0}{\bullet\bullet} = \#VALUE! \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和3年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

0 人

- (注) ・ (3) - ①、(3) - ②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。

(3) - ⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
		該当なし								
合計					後任補充状況の集計					
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
認 可 時 (令和4年)	<p>本研究科が所在する地域や社会において、本研究科で養成する人材像についての理解を一層広げる観点から、養成する人材像についてより具体的かつ明確な説明を加えるなどの工夫をした上で、広報活動や学生募集などを通じて、学内外に対して適切に周知徹底を図ること。</p>	<p>遵守事項</p>	<p>本研究科で養成する人物像についての理解を一層広げる観点から、養成する人物像について、設置の趣旨に記載した本研究科の経済・経営学に関する3つの学力を明確化したうえで、修了後の進路先を示したリーフレットを作成した。</p> <p>なお、リーフレットについては、本学の学部4年生や過年度の卒業生のみならず、関西以西の経済系学部を擁する大学に対し送付するとともに、学生募集活動を通じて会計事務所等の企業にも配布した。</p> <p>また、本研究科を海外の姉妹提携校に知らせ、本学ホームページにおいても掲載するなどにより、本研究科の設置を国内外に対しても幅広く周知した。</p> <p>履行済</p>
認 可 時 (令和4年)	<p>カリキュラム・ポリシーに定める教育方法において、課題探求能力・課題解決能力を育成するため、講義科目及び演習科目に「アクティブラーニングを取り入れる」ことが記載されているが、例えば、「証券経済特論」や「経済・経営学研究概論A・B」のシラバスでは、PCを用いたデータ分析等や会話形式での学生の理解度の確認がアクティブ・ラーニングとして記載されているなど、本来のアクティブ・ラーニングの趣旨と異なる記載が見られることから、本研究科の教育課程において学修者の主体的・対話的で深い学びが適切に実施されるよう、各授業科目におけるアクティブ・ラーニングの内容を見直すとともに、シラバスの記載を適切に改めること。</p>	<p>遵守事項</p>	<p>令和4年度講義要項（シラバス）の作成にあたり、科目担当教員に対し、各授業科目におけるアクティブ・ラーニングの手法および具体的な実施方法等を提示するとともに、シラバス〔授業内容〕にて実施する授業回に選択した手法の詳細を記載するよう依頼した。これにより、本研究科1年生対象科目におけるアクティブ・ラーニングの内容を見直し、シラバスへの記載を適切に改めた。</p> <p>※本研究科1年生対象科目のシラバスは添付資料のとおりである。</p> <p>履行中</p>

<p>認可時 (令和4年)</p>	<p>「経済・経営学研究概論A・B」について、経営管理や金融・会計といった経営学分野を含む授業構成となっているが、本科目が基礎的な経済理論に関する内容を学ぶことを目的としていることに鑑み、当該目的に合致した適切な科目名称及び科目内容に改めることが望ましい。</p>	<p>助言事項</p>	<p>「経済・経営学研究概論A」および「経済・経営学研究概論B」の2科目については、研究を進める上で基礎となる経済学・経営学の理論を学ぶ授業内容として、以下のとおり改めた。 「経済・経営学研究概論A」 経済学分野では、ミクロ経済学の基礎である数学的分析の基礎や消費者・生産者の経済活動等を学び、経営学分野では、日米などの経営管理や経営思想の概要を学修する内容とした。 「経済・経営学研究概論B」 経済学分野では、マクロ経済学の基礎であるIS-LMモデル、開放経済モデル等を学び、経営学分野では、財務会計のシステムと基本原則等を学修する内容とした。</p>	<p>履行中</p>
<p>認可時 (令和4年)</p>	<p>学位論文の審査体制について、修士論文に関連する分野に隣接する学問分野の専任教員から副査2名を審査委員とすることとしているが、本研究科の専任教員の総数が11名であることに鑑み、修士論文に関連する分野の教員による適切な審査体制を確保する観点から、必要に応じて、他の大学の大学院及び研究所等の教員を副査に任命するなど、厳格かつ公正で適切な審査体制の充実に努めること。</p>	<p>遵守事項</p>	<p>学位論文の審査体制について、経済・経営学研究科の基礎となる経済学部経済・経営学科に、令和4年4月1日付でマクロ経済学担当教員およびミクロ経済学担当教員をそれぞれ1名新規採用し、必要に応じ副査として充てることにより、令和5年度の学位論文審査に向け、修士論文に関連する分野の審査体制の強化を図った。また、令和5年度の修士論文の審査においては、学位規則（文科省令）第5条に基づく九州共立大学学位規程の定めのとおり経済・経営学研究科長が必要と認めるときは、経済・経営学研究科以外の専任教員又は他の大学院もしくは研究所等の教員を副査に充てることとしている。</p>	<p>履行中</p>

(注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
- ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<経済・経営学研究科 経済・経営学専攻>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし（教務関係）	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

大学設置基準第25条第3項に基づき、「九州共立大学ファカルティ・ディベロップメント（以下、「FD」という。）委員会規程」を制定し、組織的なFD活動を展開している。このFD委員会は、全学的組織として学長が指名する者を委員長とし、教育の質的向上・授業改善等に向けた諸施策の企画・立案、FDに係る研究会および講習会の企画・運営、学生による授業評価等の企画・実施・改善を担っている。

九州共立大学ファカルティ・ディベロップメント委員会規程（平成20年3月19日施行）

第1条 九州共立大学評議会規則（平成4年学園規則第2号）第8条に基づき、九州共立大学ファカルティ・ディベロップメント委員会（以下「FD委員会」という。）を置く。

第2条 FD委員会は、建学の精神及び教育理念・目的に立脚し、教育内容等の向上に資するため、組織的な研修及び研究を実施することを目的とする。

第3条 FD委員会は、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 教育の質的向上に向けた諸施策の企画、立案及び実施に関する事項
- (2) 研究会及び講習会の企画及び運営に関する事項
- (3) 学生による授業評価等の企画、実施及び改善に関する事項
- (4) その他必要と認めた事項

第4条 FD委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 副学長
- (2) 各学部長
- (3) 各研究科長
- (4) 教務部長
- (5) 共通教育センター所長
- (6) 事務局長
- (7) 学長が推薦する教育職員 若干名

2 前項に定める委員のほか、学長が必要と認めた職員を委員に加えることができる。

第5条 前条第1項第7号及び第2項に定める委員の任期は、学長が別に定める。

第6条 FD委員会に委員長を置き、学長が指名する者をもって充てる。

2 委員長は、必要に応じてFD委員会を招集する。

- 3 FD委員会の議長は、教務部長とし、FD委員会を運営する。
- 4 委員長に事故のあるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。
- 第7条 FD委員会は、委員の3分の2以上の出席がなければ開催することができない。
- 2 FD委員会の議事は、出席者の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 3 委員長は、必要に応じて、委員以外の職員の出席を求め、意見を聴くことができる。
- 第8条 FD委員会は、第3条の各号に掲げる事項を実施するために、必要に応じて小委員会を設置することができる。
- 2 小委員会の運用に関し必要な事項は、別に定める。
- 第9条 FD委員会の事務は、教務課において処理する。

附 則

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年5月19日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年11月15日から施行する。

附 則

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成23年5月17日から施行し、同年4月1日より適用する。

附 則

この規程は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和4年4月1日から施行する。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

第1回FD委員会開催予定：令和4年6月上旬（委員9名）

c 委員会の審議事項等

- ・ 教育の質的向上に向けた諸施策の企画、立案及び実施に関する事項
- ・ 研究会及び講習会の企画及び運営に関する事項
- ・ 学生による授業評価等の企画、実施及び改善に関する事項
- ・ その他必要と認められた事項

② 実施状況

a 実施内容

- ・ FD・SD研修会（年3回開催）
- ・ 授業評価アンケート（各学期1回開催）
- ・ 授業参観（年1回）
- ・ FDハンドブック作成
- ・ 授業改善報告書の作成

b 実施方法

- ・ FD研修会（年3回）

FD研修会は、新型コロナウイルス感染対策を講じたうえで、令和3年8月25日（水）に「令和4年度 科学研究費助成事業申請等説明会」を実施し、令和3年9月7日（火）・8日（水）に教員希望者を対象として「UNIPAの活用促進について」をテーマにPC教室にて操作説明会を実施した。また、令和4年3月16日（水）に全教員を対象として「ICTの活用と主体的な学びを高めるアクティブ・ラーニングの実践事例について」をテーマに実施した。

- ・ 授業参観（年1回）

令和3年度の授業参観については、前期または後期のいずれかの学期で最低1科目の参観を行い、授業参観後

に報告書を教務課に提出することとした。なお、教務課では取り纏め、申し出があった場合、閲覧することができるようにした。

・FDハンドブック作成

FDハンドブックは、教員の資質と能力向上にむけて、授業展開するにあたり留意すべき基本的な姿勢や考え方を示した授業実施に関するマニュアルであり、非常勤講師を含めた全教員に配布している。年々の活動の振り返りによる授業改善等の事例なども盛り込み、年々の内容等の充実等、改訂を重ねている。

・授業改善報告書の作成

授業評価アンケートの集計結果を踏まえて、アンケートを実施した全教員に「授業評価改善報告書」の提出を義務化し、次期の授業改善へフィードバックされる取り組みを行っている。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

・令和3年度FD・SD研修会（年3回開催）

① 第1回FD・SD研修会（令和4年度 科学研究費助成事業申請等説明会：令和3年8月25日（水）13:15～14:30）

当日欠席した教員については、後日ビデオ視聴を行ったので全員参加となった。

② 第2回FD・SD研修会（学生ポータルサイト UNIPAの活用促進について：令和3年9月7（火）・8（水）日）

希望者のみ（2日間で50名が参加した）

③ 第3回FD・SD研修会（ICTの活用と主体的な学びを高めるアクティブ・ラーニングの実践事例について：令和4年3月16日（水）10:00～11:30）

当日欠席した教員については、後日ビデオ視聴を行ったので全員参加となった。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

授業改善への取り組みの結果については、学生からの評価である授業評価アンケートの評価ポイントの平均値に現れるとの考えから、授業評価アンケートの評価結果の平均値4.0ポイント（満点は5.0ポイント）の目標を掲げ、学生満足度を向上するよう努めている。授業評価アンケート結果の評価ポイントの平均値を維持している

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

有 前期・後期年2回実施

b 教員や学生への公開状況、方法等

授業評価アンケートの集計結果は各教員に配布し、教務課で教員・学生が閲覧できるようにしている。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

（3）教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

本研究科は、本学経済学部 of 教育研究体制を基盤にして、会計ファイナンスに関して経営戦略に必要な枠組みを把握する力、予算や税制等を踏まえて国や地方公共団体等の課題を検討する力、などといった経済学・経営学の両領域にわたって分析・考察する力を身につけることが可能な教育研究組織である。

ここで掲げた本研究科の経済・経営学に関する力を、学力として捉え直してみると、①経済・経営学に関する専門知識と技能、②国や地方公共団体等の課題や経営体が抱える課題などを探求し、解決しようとする力、③専門知識・技能を以て課題を解決するにあたって、他者と協働しながら自己の判断によって行動する力、に整理することが可能である。本研究科は、これら3点からなる学力を培い、実社会の発展に寄与できる人材を養成することを目的としている。

今後の入学者に対し、設置の趣旨・目的に沿った教育の実施に邁進する。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・令和5年3月末 公表予定

b 公表方法

・大学ホームページ上に公開（令和5年3月末）

③ 認証評価を受ける計画

・令和4年に評価機関（日本高等教育評価機構）の評価を受ける。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和4年度）

a 公表予定の有無 [有 ・ 無]

《 a で「有」の場合》

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]

《 a で公表「無」の場合》

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

授業科目名 (Subject)	経済・経営学研究概論 A			単位数	授業内容**			
	Introduction to Economics and Business Administration Research A			2	1	(入江) 限界概念(微分・偏微分)と比較静学 / 解説 ※経済学における限界概念や比較静学について解説する。 予復修課題: 予:参考書(上) pp.205--241 復:微分・偏微分について(各2時間程度)		
担当者	李 只香(LEE Jihyang)		入江 雅仁(IRIE Masahito)		専任	2	(入江) 限界概念(微分・偏微分)と比較静学 / 演習(グループごとのプレゼン) ※経済学における限界概念の応用や比較静学の演習を実施する。 予復修課題: 予:参考書(上) pp.205--241 復:微分・偏微分について(各2時間程度)	
授業形式	講義(ホムバス方式)	科目区分	専門教育科目			3	(入江) 1変数の最適化問題 / 解説 ※制約条件が無い1変数の最適化問題の解法について解説する。 予復修課題: 予:参考書(上) pp.303--334 復:制約条件が無い最適化問題について(各2時間程度)	
配当年度	修士課程1年生	開講学期	前期			4	(入江) 1変数の最適化問題 / 演習(グループごとのプレゼン) ※制約条件が無い1変数の最適化問題の応用について学習する。 予復修課題: 予:参考書(上) pp.303--334 復:制約条件が無い最適化問題について(各2時間程度)	
授業概要	大学院での研究を進める上で基礎となる経済学・経営学の理論を学ぶ。この科目では経済分野ではミクロ経済学の基礎を身に付ける。数学的分析の基礎、消費者・生産者の経済活動、完全市場・不完全市場の概念などを学修する。経営学分野では、日米などの経営管理の主要な経営思想の概要および示唆点を学修する。					5	(入江) 多変数の最適化問題 / 解説 ※多変数の最適化問題の解法について解説する。 予復修課題: 予:参考書(上) pp.403--433 復:多変数の最適化問題について(各2時間程度)	
授業到達目標	①大学院のカリキュラムを学修していく上で必要なミクロ経済学の基礎が理解できる。 ②大学院のカリキュラムを学修していく上で必要な経営学の基礎が理解できる。 ③修士論文を書く上での基礎的知識や分析力を身に付ける。					6	(入江) 多変数の最適化問題 / 演習(グループごとのプレゼン) ※多変数の最適化問題の演習を実施する。 予復修課題: 予:参考書(上) pp.403--433 復:多変数の最適化問題について(各2時間程度)	
修了認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係[◎特に関係する ○関係する]							7	(入江) 最適化問題の経済学への適用例 / 解説 ※最適化問題の経済学への適用例について解説する。 予復修課題: 予:参考書(上) pp.459--480 復:経済学における最適化問題の例について(各2時間程度)
【知識・技能】	経済・経営学における自身の専門分野の理論的な学問体系の基礎を理解し、当該専門分野の専門知識と技能を身につけている。				◎	8	(入江) 最適化問題の経済学への適用例 / 演習(グループごとのプレゼン) ※最適化問題の経済学への適用例についての演習を実施する。 予復修課題: 予:参考書(上) pp.459--480 復:経済学における最適化問題の例について(各2時間程度)	
【思考力・判断力・表現力】	専門分野の知識・技能を用いて、国内外の社会の発展に貢献できる人材として、経済社会の諸問題に対する課題探求能力、課題解決能力を有するとともに適切な企画・計画力、的確な判断力とそれらを実践できる力を身につけている。また、専門性の高い理論を修得し、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見いだすための指導・教育に寄与する能力を身につけている。				○	9	(入江) 等式制約下の最適化問題 / 解説 ※等式制約下の最適化問題について解説する。(各2時間程度) 予復修課題: 予:参考書(下) pp.481--557 復:等式制約下の最適化問題やラグランジュ未定乗数法について	
【主体性・協働性】	専門性を併せ持った経済・生産活動の担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、社会の一員として、自ら進んで他者と協働して経済の発展と社会への貢献に寄与できる力を身につけている。				○	10	(入江) 等式制約下の最適化問題 / 演習(グループごとのプレゼン) ※等式制約下の最適化問題の演習を実施する。(各2時間程度) 予復修課題: 予:参考書(下) pp.481--557 復:等式制約下の最適化問題やラグランジュ未定乗数法について	
成績評価の方法(全体で100%)					履修における留意事項		11	(李) H・フォード、A・スローン、大野耐一、本田宗一郎の経営思想 ※概要解説と関連理論を講義する。 予復修課題: 名前のあがっている経営者について理解を深めてください。(4時間程度)
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合				(李) 必要な学習を行ってきてください。 レジュメは人数分のプリントを用意してください。	12	(李) H・フォード、A・スローン、大野耐一、本田宗一郎の経営思想 ※前回の講義内容から、注目の実践をレジュメによる発表、ディスカッションを行う。 予復修課題: 各自の注目する優れた経営実践家について、その概要と示唆点を学修する。(4時間程度)	
1. 小テスト、感想文など	%				(入江) グループで課題に取り組みます。 グループ内で役割分担を決めておいてください。	13	(李) ジャックウェルチ、松下幸之助、ビルゲイツの経営思想 ※概要解説と関連理論を講義する。 予復修課題: 名前のあがっている経営者について理解を深めてください。(4時間程度)	
2. 中間テスト	%					14	(李) ジャックウェルチ、松下幸之助、ビルゲイツの経営思想 ※前回の講義内容から、注目の実践をレジュメによる発表、ディスカッションを行う。 予復修課題: 各自の注目する優れた経営実践家について、その概要と示唆点を学修する。(4時間程度)	
3. 課題レポートなどの提出物	%					15	(李) (総括) 優れた経営実践者の経営思想と今日の経営学理論 ※総括講義後、各自の研究にどう活かせるかについて発言してもらい、コメントする。 予復修課題: これまでの講義・ディスカッションを踏まえて学修してくる。(4時間程度)	
4. 授業中の発表、討論	50 %							
5. 授業への参加意欲	50 %							
6. 自主的学修(予修・復修など)	%							
7.	%							
2) 最終到達度の評価					アクティブ・ラーニング			
1. まとめのテスト	%	ディスカッション、グループワーク、						
2. 論文、まとめのレポートなど	%	プレゼンテーション、事前学習型授業、						
3.	%	反転授業						
再評価の実施	する	しない		○				
教科書	(李) マネジメントの学説と思想(渡辺峻ほか著)、経営学入門キーコンセプト(井原久光編)							
参考書	(入江) 現代経済学の数学基礎[第4版]上・下(A.C.チャン/K.ウエインライト著、シーエービー出版)							

*領域区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

**授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず「UNIVERSAL PASSPORT」で確認してください。

授業科目名 (Subject)	経済・経営学研究概論B			単位数	授業内容**	
	Introduction to Economics and Business Administration Research B			2	1	(岡部) 会計の種類と択割について、その概要を学修する。
担当者	岡部 勝成 (OKABE Katsuyoshi)		入江 雅仁 (IRIE Masahito)		専任	予復修課題： 会計の種類や法規制、財務会計の役割について(pp.1-22)。(4時間程度)
授業形式	講義 (ホムペス方式)	科目区分	専門教育科目			2 (岡部) 財務会計のシステムと基本原則について、その概要を学修する。グループごとにプレゼンテーションし、ディスカッションを行う。
配当年次	修士課程1年生	開講学期	前期			予復修課題： 財務会計のシステム、会計基準などについて(pp.23-45)。レジュメ作成(4時間程度)
授業概要	大学院での研究を進める上で基礎となる経済学・経営学の理論を学ぶ。この科目では経済分野ではマクロ経済学の基礎を身に付ける。IS-LMモデル、開放経済モデル、成長モデルなどを学修する。経営学分野では、会計に関するルールや制度、国際会計基準の動向やその基準、企業の会計行動、会計現象にフォーカスし、会計基準やその制度がいかに企業活動に影響を及ぼすのかを学修する。					
	授業到達目標	①大学院のカリキュラムを学修していく上で必要なマクロ経済学の基礎が理解できる。 ②大学院のカリキュラムを学修していく上で必要な経営学の基礎が理解できる。 ③修士論文を書く上での基礎的知識や分析力を身に付ける。				
修了認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係[◎特に関係する ○関係する]						
【知識・技能】	経済・経営学における自身の専門分野の理論的な学問体系の基礎を理解し、当該専門分野の専門知識と技能を身につけている。				◎	7 (入江) 線形モデルと行列代数の基礎 / 解説 (反転授業・ディスカッション) ※行列の演算に関する演習を実施する。 予復修課題： 予:参考書(上) pp.65--108 復:行列の演算について(各2時間程度)
【思考力・判断力・表現力】	専門分野の知識・技能を用いて、国内外の社会の発展に貢献できる人材として、経済社会の諸問題に対する課題探求能力、課題解決能力を有するとともに適切な企画・計画力、的確な判断力とそれらを実践できる力を身につけている。また、専門性の高い理論を修得し、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見いだすための指導・教育に寄与する能力を身につけている。				○	8 (入江) 線形モデルの解法 / 解説 (反転授業・ディスカッション) ※線形モデルの解法について解説する。 予復修課題： 予:参考書(上) pp.113--148 復:行列式・逆行列・クラメールの公式について(各2時間程度)
【主体性・協働性】	専門性を併せ持った経済・生産活動の担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、社会の一員として、自ら進んで他者と協働して経済の発展と社会への貢献に寄与できる力を身につけている。				○	9 (入江) 線形モデルの解法 / 演習 (グループごとのプレゼンテーション) ※線形モデルの演習を実施する。 予復修課題： 予:参考書(上) pp.113--148 復:行列式・逆行列・クラメールの公式について(各2時間程度)
成績評価の方法(全体で100%)		履修における留意事項				
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合	(岡部) シラバスに目を通し、必要な学習を行ってきてください。レジュメ作成の場合は、人数分のプリントを用意してきてください。進捗状況等により変更することがあります。				
1. 小テスト、感想文など	%	(入江) 少数のグループ毎に課題や演習に取り組んでもらうので、グループ内で事前に担当個所の役割分担を決定しておいてください。				
2. 中間テスト	%					
3. 課題レポートなどの提出物	%					
4. 授業中の発表、討論	50 %					
5. 授業への参加意欲	50 %					
6. 自主的学修(予修・復修など)	%					
7.	%					
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト	%	ディスカッション、プレゼンテーション、				
2. 論文、まとめのレポートなど	%	事前学習型授業、ミニッツペーパー・レポート、				
3.	%	反転授業				
再評価の実施	する	しない	○			
教科書	財務会計・入門 (桜井久勝・須田一幸著、有斐閣)					
参考書	現代経済学の数学基礎[第4版]上・下 (A.C. チャン / K. ウェインライト著、シーエーピー出版)					
						15 (入江) 一般関数モデルの比較静学 / 演習 (グループごとのプレゼンテーション) ※一般関数モデルの比較静学について演習を実施する。(各2時間程度) 予復修課題： 予:参考書(下) pp.281--299 復:一般関数モデル(閉鎖経済・開放経済)の比較静学について

*領域区分の略号表は巻頭索引ページにあります。 **授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず「UNIVERSAL PASSPORT」で確認してください。

授業科目名 (Subject)		財政学特論 Advanced Lectures on Public Finance		単位数	授業内容**	
担当者	石川 達哉 (ISHIKAWA Tatsuya)			2	1	ガイダンス：講義の進め方、授業各回で取扱うテーマの概要と適用するマクロ経済学及びミクロ経済学の考え方を説明する。 予復修課題：授業時に指示(予復修目安時間180分)
授業形式	講義	科目区分	専門教育科目	専任	2	財政の機能：資源配分機能、所得再分配機能、経済安定化機能について、理論的な解説を行う。公共財の最適供給問題については受講者が解法を発表し、教員が補足・解説する。 予復修課題：授業時に指示(予復修目安時間180分)
配当年次	修士課程1年生	開講学期	前期		3	日本経済の歩みと財政運営：今日に至るまでの戦後日本の経済の歩みと財政運営の歴史について時代毎の特徴が明らかになる形で解説した後、受講者による自由討議を行う。 予復修課題：授業時に指示(予復修目安時間180分)
授業概要	国及び地方公共団体の予算原則、国と地方の財政関係を含めた財政制度の仕組み、現実の政策とその経済効果について解説する。制度の説明に際しては、最新の予算・決算の資料や統計を利用する。経済効果の考察に際しては、マクロ経済学ならびにミクロ経済学の考え方を応用する。特に、財政政策の効果を検討する際は、IS-MPモデルや開放経済に拡張したIS-LMモデルを利用する。また、地方財政固有のトピックスとして、分権化定理、国からの定額補助金及び定率補助金の効果、予算制約のソフト化、地方公共団体間競争などに関する理論を紹介する。				4	予算制度と予算過程：財政法や地方財政法に定められた国と地方公共団体と予算原則と現実の予算制度について解説する。 予復修課題：授業時に指示(予復修目安時間180分)
授業到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・財政政策、金融政策の効果をマクロ経済学の考え方に即して説明できる。□ ・国から地方への補助金の効果をミクロ経済学の考え方に即して説明できる。 ・国家財政、地方財政の現状と課題について、他者と議論することができる。 				5	国の一般会計：国の一般会計予算及び決算の具体的な内容について解説する。現在の日本の財政状況や政府の対応について、受講者による自由討議も行う。 予復修課題：授業時に指示(予復修目安時間180分)
修了認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係[◎特に関係する ○関係する]					6	地方公共団体の普通会計：地方全体(地方公共団体の集合体概念)の予算に相当する地方財政計画と普通会計決算の具体的な内容を解説した後、受講者による自由討議を行う。 予復修課題：授業時に指示(予復修目安時間180分)
【知識・技能】経済・経営学における自身の専門分野の理論的な学問体系の基礎を理解し、当該専門分野の専門知識と技能を身につけている。				◎	7	財政政策の理論(1) 45度線モデル：政府支出乗数、減税乗数、ビルト・イン・スタビライザーを中心に45度線モデルの復修を行う。受講者が演習問題の解法を発表し、討議する。 予復修課題：授業時に指示(予復修目安時間180分)
【思考力・判断力・表現力】専門分野の知識・技能を用いて、国内外の社会の発展に貢献できる人材として、経済社会の諸問題に対する課題探求能力、課題解決能力を有するとともに適切な企画・計画力、的確な判断力とそれらを実践できる力を身につけている。また、専門性の高い理論を修得し、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見いだすための指導・教育に寄与する能力を身につけている。				○	8	財政政策の理論(2) 閉鎖経済下のIS-LMモデル：閉鎖経済下のIS-LMモデルによるGDPと金利の決定メカニズム、財政政策と金融政策の効果を解説し、受講者は演習問題に取り組む。 予復修課題：授業時に指示(予復修目安時間180分)
【主体性・協働性】専門性を併せ持った経済・生産活動の担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、社会の一員として、自ら進んで他者と協働して経済の発展と社会への貢献に寄与できる力を身につけている。				○	9	財政政策の理論(3) 開放経済下のIS-LMモデル：小国開放経済を前提にしたIS-LMモデルについて、閉鎖経済モデルとの違いを解説した後、受講者は演習問題の解法を発表する。 予復修課題：授業時に指示(予復修目安時間180分)
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項		
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合			経済学部で開講している「財政学入門」や「財政学」と共通するテーマは、理論面を重視した上級編の内容とし、マクロ経済学やミクロ経済学を応用しつつ、財政学固有の概念や理論を新たに学ぶ。その際、理論が妥当する現実の事例を受講者が見出せるよう促す。必要に応じて、最近の学術研究動向も紹介する。科目の性質上、フィールドワークは行わない。		
1. 小テスト、感想文など	%			アクティブ・ラーニング 第2, 3, 5~11, 13, 14回の授業は講義方式と演習方式の折衷的な運営とする。受講者による解法発表と自由討議を重視し、教員による解説や質疑応答を交えて、双方向の議論を実践する。		
2. 中間テスト	%					
3. 課題レポートなどの提出物	20 %					
4. 授業中の発表、討議	%					
5. 授業への参加意欲	30 %					
6. 自主的学修(予修・復修など)	%					
7.	%					
2) 最終到達度の評価				10		
1. まとめのテスト	50 %			財政政策の理論(4) IS-MPモデル：伝統的なIS-LMモデルの想定とは異なる金融政策ルールを前提に構築されたIS-MPモデルの枠組みを解説した後、受講者は演習問題に取り組む。 予復修課題：授業時に指示(予復修目安時間180分)		
2. 論文、まとめのレポートなど	%			11		
3.	%			財政の持続可能性と公債の中立命題：財政赤字と累増する国債残高の問題について、財政の持続可能性と公債の中立命題という観点から解説した後、受講者は自由討議を行う。 予復修課題：授業時に指示(予復修目安時間180分)		
再評価の実施	する ○	しない		12		
教科書	入門財政学(土居丈朗著、日本評論社)			地方財政の理論(1) 分権化定理と足による投票：地方分権の意義を理論的に考察する分権化定理と足による投票について解説する。 予復修課題：授業時に指示(予復修目安時間180分)		
参考書	マンキュー マクロ経済学 I 入門篇(第4版)(N・グレゴリー・マンキュー著、東洋経済新報社)			13		
				地方財政の理論(2) 国からの定額補助金と定率補助金：政府間財政移転の理論として、国から地方への定額補助金と定率補助金の効果を解説した後、受講者は演習問題に取り組む。 予復修課題：授業時に指示(予復修目安時間180分)		
				14		
				地方財政の理論(3) フライペーパー効果と予算制約のソフト化：政府間財政移転に由来する問題として、フライペーパー効果と予算制約のソフト化を解説した後、自由討議する。 予復修課題：授業時に指示(予復修目安時間180分)		
				15		
				総括：これまでの講義内容の総括を行うとともに、まとめのテストを実施する。 予復修課題：授業時に指示(復修目安時間600分)		

*領域区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

**授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず「UNIVERSAL PASSPORT」で確認してください。

授業科目名 (Subject)	証券経済特論 Advanced Lectures on Economic Studies of Securities			単位数	授業内容**		
担当者	末木 将史(SUEKI Masachika)			2	専任	1 ガイダンス：授業の進め方、使用テキストについてのコメント、情報サイトの紹介、ソフトウェアのインストール、および設定目標とプロジェクトマネジメントの説明 予復修課題：PCへのブックマーク登録、ソフトインストール、テンプレート作成等(120分程度)	
授業形式	講義	科目区分	専門教育科目			2 概論：証券市場論・証券投資論 金融の意義と機能、直接金融と間接金融、市場と投資について説明する。グループディスカッション(GD)の実施 予復修課題：指定された統計種についてデータをDLし分析して見解をまとめる(120分程度)	
配当年度	修士課程1年生	開講学期	前期			3 直接金融の意義と機能：証券の制度的構造と、情報処理機構としての市場の関係を説明する。GDの実施 予復修課題：証券経済論における「情報」の意味する内容をもう一度、整理しておく(120分程度)	
授業概要	証券市場と証券投資について発行者、投資家、市場開設者及び規制当局の面から取り上げる。その際、間接金融システムとの比較を通じて、直接金融システムの金融ツールである証券の意義と役割についても述べる。まず、株式及び債券の定義、金融契約上の位置づけ、ならびに価格算式などを取り上げる。次に、発行市場における発行者の経済的・財務的な動機と、それに対応する投資家側の期待・予想との均衡が実現するプロセスを経済学的に分析する。その後、流通市場における期待形成、価格形成、取引メカニズムを分析する。□					4 情報の経済学①プリンシパル・エージェント理論：経営と所有の分離、情報の非対称性、およびインセンティブデザインを説明する。GDの実施 予復修課題：情報の非対称性の意味、インセンティブデザインが必要である理由(120分程度)	
	授業到達目標	ミクロ経済学および金融論の基礎を踏まえて経済社会における直接金融・証券市場の機能と効果を理解することができる。 ミクロ・マクロの経済状況や、制度環境による影響が証券の発行・流通に及ぼす影響を理解し、予想することができる。					5 情報の経済学②情報開示制度：証券の制度的メカニズムとしての情報開示の意味とシステムを分析する。GDの実施 予復修課題：情報開示制度をネットからDLし、実務世界では機能していることを確認(120分程度)
修了認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕					6 情報の経済学③企業統治のあり方と現状：制度的メカニズムとしての企業統治のデザインと効果を分析する。GDの実施 予復修課題：企業統治のデザインには複数ある。調べて整理すること。発表を求める。(120分程度)		
【知識・技能】	経済・経営学における自身の専門分野の理論的な学問体系の基礎を理解し、当該専門分野の専門知識と技能を身につけている。					◎	7 証券投資論の基礎：証券の権利体系別パイオフダイアグラム、投資モデルと戦略、パフォーマンス評価尺度。GDの実施 予復修課題：投資モデルの種類とそれらの戦略について整理し、復修(120分程度)
【思考力・判断力・表現力】	専門分野の知識・技能を用いて、国内外の社会の発展に貢献できる人材として、経済社会の諸問題に対する課題探求能力、課題解決能力を有するとともに適切な企画・計画力、的確な判断力とそれらを実践できる力を身につけている。また、専門性の高い理論を修得し、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見いだすための指導・教育に寄与する能力を身につけている。					○	8 不確実性とリスク、リターン、及びtwo parameter approach：それぞれの派生形も含め、定義と意味、算式やデータについて述べる。演習も行う。 予復修課題：それぞれのデータを視覚化した上で分析。データ源は別途指示。(120分程度)
【主体性・協働性】	専門性を併せ持った経済・生産活動の担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、社会の一員として、自ら進んで他者と協働して経済の発展と社会への貢献に寄与できる力を身につけている。					○	9 情報と取引行動：情報収集と期待形成モデル、および取引メカニズムを通じた価格決定を説明する。GDの実施 予復修課題：収集すべき情報とその情報源につき、ネット上からURLを探し、整理(120分程度)□
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項				
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合	PCは授業参加の上で必須です。ネットからデータをDL(ダウンロード)して分析に活用してもらいます。					
1. 小テスト、感想文など	%	プログラミングは必須ではありませんが、スプレッドシートは使いこなせることが必須です。					
2. 中間テスト	%						
3. 課題レポートなどの提出物	%						
4. 授業中の発表、討論	30 %						
5. 授業への参加意欲	10 %						
6. 自主的学修(予修・復修など)	20 %						
7. アプリやソフトの活用	20 %						
2) 最終到達度の評価	アクティブ・ラーニング						
1. まとめのテスト	%	グループディスカッションの手法を取り入れ、専門知識の修得を行う。					
2. 論文、まとめのレポートなど	20 %						
3.	%						
再評価の実施	する ○ しない						
教科書	証券論(大村敬一・俊野雅司著、有斐閣)						
参考書	ミクロ経済学の力(神取道宏著、日本評論社)						
						15 授業のまとめ：授業の全体をまとめるとともに、最新のトピックスを分解・分析・評価する。 予復修課題：第2回から第14回目までの内容を整理しておく(120分程度)	

* 領域区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

** 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず「UNIVERSAL PASSPORT」で確認してください。

授業科目名 (Subject)	国際経済特論 Advanced Lectures on International Economics			単位数	授業内容**		
担当者	水戸 康夫 (MITO Yasuo)			2	1	履修学生の知識に応じて講義を行うので、必要な知識に関する情報を提示する。提示した知識について説明を求める。学生の説明に対し、コメントやディスカッションを行う。 予復修課題： シラバスを読み込んで、必要な知識を調べておく:予復修時間120分	
授業形式	講義	科目区分	専門教育科目	専任	2	直接投資の理論の紹介および問題点の指摘 1: ハイマーの理論、内部化理論についての説明を求める。学生の説明に対し、コメントやディスカッションを行う。 予復修課題： ハイマーの理論、内部化理論について予復修する:予復修時間120分	
配当年次	修士課程1年生	開講学期	前期		3	直接投資の理論の紹介および問題点の指摘 2: OLIパラダイム、プロダクト・サイクル理論についての説明を求める。学生の説明に対し、コメントやディスカッションを行う。 予復修課題： OLIパラダイム、プロダクト・サイクル理論について予復修する:予復修時間120分	
授業概要	多国籍企業が対外直接投資の多くを行なってきた。従来は、期待利潤率の高いところに多く行われると考えられてきた。しかし1990年代のアジアでは、中国よりアジアNIES（韓国、台湾、香港、シンガポール）やASEAN4（タイ、マレーシア、インドネシア、フィリピン）の利潤率の方が高いにも関わらず、中国への進出の方がより盛んであった。本講義では、実際の事例研究から対外直接投資の意思決定に際して、いったい何が優先されるかなどを中心に探求していく。				4	直接投資の理論の紹介および問題点の指摘 3: アハロニーの理論についての説明を求める。学生の説明に対し、コメントやディスカッションを行う。 予復修課題： アハロニーの理論について予復修する:予復修時間120分	
授業到達目標	目標は3つあり、 有力な対外直接投資理論を理解し、理論に基づいて現実を説明できるようになること 統計学の基礎を習得できるようになること 行動経済学に基づいて、少数とはいえ利潤最大化行動しない企業の説明ができること である。				5	現実の直接投資の説明：1990年代の日本企業のアジアへの直接投資の説明についての説明を求める。学生の説明に対し、コメントやディスカッションを行う。 予復修課題： 1990年代の日本企業のアジアへの直接投資について予復修する:予復修時間120分	
修了認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係[◎特に関係する ○関係する]					6	対外直接投資において、利潤率以外にも注目すべき要因：OLSを用いての利潤率での説明を求める。その上で、利潤率のt値についての説明も求める。 予復修課題： 統計学におけるOLSについて予復修する:予復修時間120分	
【知識・技能】経済・経営学における自身の専門分野の理論的な学問体系の基礎を理解し、当該専門分野の専門知識と技能を身につけている。					7	対外直接投資において、賃金率以外にも注目すべき要因：OLSを用いての賃金率での説明を求める。その上で、賃金率のt値についての説明も求める。 予復修課題： 対外直接投資において、賃金率以外の要因について予復修する:予復修時間120分	
【思考力・判断力・表現力】専門分野の知識・技能を用いて、国内外の社会の発展に貢献できる人材として、経済社会の諸問題に対する課題探求能力、課題解決能力を有するとともに適切な企画・計画力、的確な判断力とそれらを実践できる力を身につけている。また、専門性の高い理論を修得し、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見いだすための指導・教育に寄与する能力を身につけている。					8	利潤率や賃金率以外の要因探索：実験を通じての探索について説明を求める。学生の説明に対し、コメントやディスカッションを行う。 予復修課題： 利潤率や賃金率以外の要因について予復修する:予復修時間120分	
【主体性・協働性】専門性を併せ持った経済・生産活動の担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、社会の一員として、自ら進んで他者と協働して経済の発展と社会への貢献に寄与できる力を身につけている。					9	「2段階選択」に基づく説明：マーケティング分野の概念であるイボークト・セット (evoked set: 想起集合)の援用についての説明を求める。 予復修課題： イボークト・セットについて予復修する:予復修時間120分	
成績評価の方法(全体で100%)					10	反日感情の存在する中国への進出：反日感情のある国への進出リスクについての説明を求める。学生の説明に対し、コメントやディスカッションを行う。 予復修課題： 反日感情について予復修する:予復修時間120分	
履修における留意事項					11	客観的には、経済合理性のない中国への進出を説明 1: 客観的には、経済合理性はないと主張できるのかについての説明を求める。 予復修課題： 客観的には、経済合理性のない中国への進出について予復修する:予復修時間120分	
1) 授業到達目標への到達努力の評価 評価割合					12	客観的には、経済合理性のない中国への進出を説明 2: 進出した日本企業はリスク愛好的であるとする行動経済学に基づいた説明を求める。 予復修課題： 行動経済学におけるリスク愛好的行動について予復修する:予復修時間120分	
1. 小テスト、感想文など %					アクティブ・ラーニング ディスカッション	13	客観的には、経済合理性のない中国への進出を説明 3: 進出した日本企業にとってはリスク中立的の進出であり、反日感情をリスクとは認識していないことの説明を求める。 予復修課題： 反日デモをリスクと認識しない心理について予復修する:予復修時間120分
2. 中間テスト %						14	反日感情をリスクとは認識していないこと持つ意味：リスクの高い海外進出を行なう理由の一つとして、リスク感度の低さが存在するとした時の説明を求める。 予復修課題： リスク感度の低さを説明する行動経済学について予復修する:予復修時間120分
3. 課題レポートなどの提出物 %						15	まとめ：総括を行なうとともに、授業に対してどの程度の理解しているのかの確認をした上で、コメントを行い、ディスカッションを行う。 予復修課題： 第1回～第15回の講義を復修する:予復修時間120分
4. 授業中の発表、討論 50 %							
5. 授業への参加意欲 %							
6. 自主的学修(予修・復修など) %							
7. %							
2) 最終到達度の評価							
1. まとめのテスト %							
2. 論文、まとめのレポートなど %							
3. 予修したことに基づく発表内容 50 %							
再評価の実施 する しない ○							
教科書	海外立地選択の行動経済学 (水戸康夫著、創成社)						
参考書	海外進出リスク分析 (水戸康夫著、創成社)						

*領域区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

**授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず「UNIVERSAL PASSPORT」で確認してください。

授業科目名 (Subject)	国際通貨金融特論 Advanced Lectures on International Currencies and Finance			単位数	2	授業内容**		
	担当者	甘 長青 (KAN Chousei)		専任		1	ガイダンス及びイントロダクションの後、参考書の古川頭『現代の金融』の第1章 金融の仕組み、第2章金融システム、第3章金融市場、第4章金利と資産価格の要点をおさえる。 予復修課題： シラバスのほか、参考書『現代の金融』の第1～4章を読み、金融関連のリテラシを固めておくこと。	
授業形式	講義	科目区分	専門教育科目			2	参考書『現代の金融』第5章 金融機関の機能、第6章企業金融、第7章決済と信用秩序、第8章金融政策の要点をおさえて、次回以降の国際通貨金融関連学習に備える。□ 予復修課題： 参考書『現代の金融』第5～8章の内容を把握し、不明点があれば、前もって整理しておくこと。	
配当年度	修士課程1年生	開講学期	前期			3	教科書の第1章(「開放経済の対外経済取引」)を扱う。開放経済、国民所得勘定、国際収支勘定、経常収支、開放経済下のストックとフロー、外貨準備等の概念の意味を理解する。 予復修課題： 教科書第1章、参考書等の関係部分を読んで講義内容を把握し、不明点があれば、前もって整理しておくこと。	
授業概要	今日の世界経済では、「ヒト」「モノ」「カネ」「情報」が絶えず国境を越えて行き来する。とりわけ「カネ」、すなわち資金の国際的な移動は、世界経済に大きな影響を及ぼしている。本講義では、日本をはじめ、各主要国の為替制度や、国際貿易の決済、国際投資などクロスボーダーの資金移動、国際通貨システムの現状と課題、中国が進める人民元の国際化を巡る最新の動きなどを扱う。なお、日欧米中等の中央銀行が研究もしくは構想中の中央銀行デジタル通貨(CBDC)等通貨や金融を取り巻く最新の国際的な動きにも即応して適宜取上げて解説する。					4	教科書の第2章(「外国為替市場と為替レート」)を扱う。外国為替市場、為替取引・レート、国際取引における媒介通貨、表示通貨、保有資産という国際通貨の役割等を理解する。□ 予復修課題： 教科書第2章、参考書等の関係部分を読んで講義内容を把握し、不明点があれば、前もって整理しておくこと。	
	授業到達目標	① 国際通貨金融取引の現状、課題及び原因・背景を理解できる。 ② 外国為替市場と為替レート、主要国の為替政策の概要がわかる。 ③ 自国通貨の国際化の予想されるメリットとデメリットを理解できる。 ④ 国際通貨金融関連動向に関心を持ち、意欲的にフォローすることができる。 ⑤ 国際通貨金融の実態及びその背景にある複雑なパワーバランスを考察できる。					5	教科書の第3章(「為替政策と金融政策の独立性」)を扱う。外為市場操作と為替制度、固定相場、変動相場、管理フロート制、金本位制、カレンシーボード等の概念を理解する。□ 予復修課題： 教科書第3章、参考書等の関係部分を読んで講義内容を把握し、不明点があれば、前もって整理しておくこと。
修了認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係[◎特に関係する ○関係する]						6	教科書の第4章(「為替制度のあらまし」)を扱う。明治から第一次大戦前や戦間期、更に第二次大戦後のブレトン・ウッズ体制下から今日に至る日本の為替制度の変遷を概観する。 予復修課題： 教科書第4章、参考書等の関係部分を読んで講義内容を把握し、不明点があれば、前もって整理しておくこと。	
【知識・技能】経済・経営学における自身の専門分野の理論的な学問体系の基礎を理解し、当該専門分野の専門知識と技能を身につけている。						◎	7	教科書の第5章(「外国為替市場の長期的均衡」)を扱う。一物一価の法則、購買力平価、実質為替レート、名目為替レートなどの概念を理解し、為替と国際競争力の関係を考える。 予復修課題： 教科書第5章、参考書等の関係部分を読んで講義内容を把握し、不明点があれば、前もって整理しておくこと。
【思考力・判断力・表現力】専門分野の知識・技能を用いて、国内外の社会の発展に貢献できる人材として、経済社会の諸問題に対する課題探求能力、課題解決能力を有するとともに適切な企画・計画力、的確な判断力とそれらを実践できる力を身につけている。また、専門性の高い理論を修得し、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見いだすための指導・教育に寄与する能力を身につけている。						○	8	教科書の第6章(「外国為替市場の短期的均衡」)を扱う。間接裁定、取引費用、資本移動規制、リスクプレミアム等の意味を理解し、金利差と名目為替レートの関係性を考える。□ 予復修課題： 教科書の第6章、参考書等の関係部分を読んで講義内容を把握し、不明点があれば、前もって整理しておくこと。
【主体性・協働性】専門性を併せ持った経済・生産活動の担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、社会の一員として、自ら進んで他者と協働して経済の発展と社会への貢献に寄与できる力を身につけている。						○	9	教科書の第7章(「為替レート期待と外為市場の効率性」)を扱う。変動為替レートの短期的変化率、ニュース等の情報と価格変動、為替レートの中期的変動等の内容を理解する。 予復修課題： 教科書第7章、参考書等の関係部分を読んで講義内容を把握し、不明点があれば、前もって整理しておくこと。
成績評価の方法(全体で100%)						履修における留意事項		
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	この科目で扱う内容は、多岐にわたり、複雑のため、地道な努力は不可欠である。従って教科書、参考書等の関係部分(詳しくは各回の授業内容欄を参照)を必ず読んで、授業内容を事前に把握しておくこと。不明点があれば、前もって整理しておき、授業の際もしくは授業の後に、納得するまで教員に質問するように。			予復修課題・取組時間：3時間以上		
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング			10		
1. まとめのテスト		%	PBL(課題解決型学習)、ディスカッション			教科書の第8章(「外為市場介入とポートフォリオ・バランス」)を扱う。外為市場介入の仕組み、日本の通貨当局の市場介入と外貨準備高の関係を概観し、介入の効果等を考える。 予復修課題： 教科書第8章、参考書等の関係部分を読んで講義内容を把握し、不明点があれば、前もって整理しておくこと。		
2. 論文、まとめのレポートなど		40 %	最新の国際通貨金融関連の各国政府・中銀発表や研究論文、経済紙等の報道を織り交ぜ受講者たちの意見を引き出しディスカッションする。			11		
3.		%				教科書の第9章(「為替レートと国際収支の調整」)を扱う。財の価格弾力性、為替レート変動の貿易財と非貿易財の相対価格、生産、消費、更に国際収支等に与える影響を考える。 予復修課題： 教科書第9章、参考書等の関係部分を読んで講義内容を把握し、不明点があれば、前もって整理しておくこと。		
再評価の実施		する ○	しない		12			
教科書	入門 国際金融 第4版(高木信二著、日本評論社)					13		
参考書	ポストコロナの米中覇権とデジタル人民元(遠藤誉・白井一成著、株式会社実業之日本社)					教科書の第10章(「為替レートとマクロ経済」)を扱う。開放経済下の一国のマクロ経済政策の効果の限界を理解し、マクロ政策の国際協調を行う理由及びその際の問題点を考える。 予復修課題： 教科書第10章、参考書等の関係部分を読んで講義内容を把握し、不明点があれば、前もって整理しておくこと。		
	現代の金融 第3版(古川頭著、東洋経済新報社) 未完の人民元改革(関志雄著、文眞堂)					14		
						教科書の第11章(「国際資本移動と国際資本市場」)を扱う。国際資本移動の経済学的意味、国際資本移動の実態を概観した上、国際資本取引自由化のメリットとデメリットを考える。 予復修課題： 教科書第11章、参考書等の関係部分を読んで講義内容を把握し、不明点があれば、前もって整理しておくこと。		
						15		
						教科書の第12章(「国際収支危機」)を扱う。国際債務危機と国際収支危機の二つのパターンに分けて近年の国際収支危機の実態を概観し、危機の防止策と事後対策の在り方を考える。 予復修課題： 教科書第12章、参考書等の関係部分を読んで講義内容を把握し、不明点があれば、前もって整理しておくこと。		
						教科書の第13章(「新しい国際通貨制度の枠組み」)を扱う。現行の国際通貨制度、東アジア地域通貨協力を概観し中銀デジタル通貨(CBDC)、中国人民元国際化等の取組を紹介する。 予復修課題： 教科書第13章、参考書等の関係部分を読んで講義内容を把握し、不明点があれば、前もって整理しておくこと。		

*領域区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

**授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず「UNIVERSAL PASSPORT」で確認してください。

授業科目名 (Subject)		経営管理特論 Advanced Lectures on Business Administration		単位数	授業内容**	
担当者	李 只香(LEE Jihyang)			2	専任	1 ガイダンス：目的と内容、成績評価方法、教科書や参考書の紹介する ※受講生各自の予習内容を発言してもらい、経営学の考えについてコメントする。 予復修課題： 授業概要のなかから、理論や語彙の一つ選び、その内容や意味を学習すること。(1時間程度)
授業形式	講義	科目区分	専門教育科目			2 経営管理(1)：管理論の台頭・進化 ※関連の事前学習内容を発言してもらい、コメントするほか講義する。 予復修課題： F・テイラーの経営管理への貢献点、科学的管理法以降の生産管理の発展について(4時間程度)
配当年次	修士課程1年生	開講学期	前期			3 経営管理(2)：主要理論の人間観 ※関連の事前学習内容を発言してもらい、コメントするほか講義する。 予復修課題： テイラーの科学的管理法、メイヨール・人間関係論、フォレット・組織内の垂直的な関係(3時間程度)
授業概要	経営管理全般について学ぶ。企業を中心とした組織の適切な、また優れた管理運営の在り方について考える「経営管理」領域について、経営管理の基本的な諸学説(科学的管理法、組織理論、人間関係論、意思決定論等)及び組織構造・組織文化のマネジメントの主要概念を講義する。また、最近の経営管理論は環境適応的な戦略論と一体となってきたため、経営戦略論の流れについて講義するとともに、内部資源や組織能力に着目した最新研究について内外の研究論文やニュース、新聞等をもとに講義する。最新事例や研究成果を絡めながら解説する。					4 経営組織(1)：企業の組織化の原理 ※関連の事前学習内容を発言してもらい、コメントするほか講義する。 予復修課題： 組織構造、組織内の垂直的な関係、リッカート・連結ビーン(3時間程度)
	授業到達目標	①主要理論についての知見が得られる。 ②研究の着眼点について示唆が得られる。 ③研究分析ツールについての示唆が得られる。				
修了認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕						
【知識・技能】	経済・経営学における自身の専門分野の理論的な学問体系の基礎を理解し、当該専門分野の専門知識と技能を身につけている。				◎	7 経営戦略(1)：経営戦略の主要概念・理論 ※関連の事前学習内容を発言してもらい、コメントするほか講義する。 予復修課題： ミツバグ、アンゾフ、製品・市場マトリックス戦略(3時間程度)
【思考力・判断力・表現力】	専門分野の知識・技能を用いて、国内外の社会の発展に貢献できる人材として、経済社会の諸問題に対する課題探求能力、課題解決能力を有するとともに適切な企画・計画力、的確な判断力とそれらを実践できる力を身につけている。また、専門性の高い理論を修得し、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見いだすための指導・教育に寄与する能力を身につけている。				○	8 経営戦略(2)：経営戦略の主要概念・理論 ※関連の事前学習内容を発言してもらい、コメントするほか講義する。 予復修課題： ポーター・基本戦略・5フォース、VRIO(3時間程度)
【主体性・協働性】	専門性を併せ持った経済・生産活動の担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、社会の一員として、自ら進んで他者と協働して経済の発展と社会への貢献に寄与できる力を身につけている。				○	9 経営戦略(3)：経営戦略の主要概念・理論 ※関連の事前学習内容を発言してもらい、コメントするほか講義する。 予復修課題： ポストン・コンサルティング・グループ、プロダクトライフサイクル、PPM、経験曲線(3時間程度)
成績評価の方法(全体で100%)		履修における留意事項				
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	1. シラバスに目を通し、必要な学習を行って くること。事前学習を重視し、授業中に会話 形式で理解を確かめる。			
1. 小テスト、感想文など		%	2. 関心を持つ概念や理論の注目点について、 レポート作成を行ってもらおう。			
2. 中間テスト		%				
3. 課題レポートなどの提出物		%				
4. 授業中の発表、討論		%				
5. 授業への参加意欲		%				
6. 自主的学修(予修・復修など)		50 %				
7.		%				
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト		%	事前学習型授業、レポート			
2. 論文、まとめのレポートなど		50 %				
3.		%				
再評価の実施	する	しない	○			
教科書	マネジメントの学説と思想(渡辺峻ほか著) 経営学入門キーコンセプト(井原久光編) ミネルヴァ書房					
参考書	総括：これまでのコメント・講義からの示唆を振り返る 15 ※講義後、注目理論や概念について検討点について発言してもらい、コメントする。 予復修課題： これまでの学習から、自分の研究に役立つ理論やその応用における質問点を考えてくること。(3時間程度)					

*領域区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

**授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず「UNIVERSAL PASSPORT」で確認してください。

授業科目名 (Subject)	財務会計特論 Advanced Lectures on Financial Accounting			単位数	授業内容**		
	担当者	岡部 勝成 (OKABE Katsuyoshi)			2	1	ガイダンスについてシラバスを精読し授業の進展に応じて適宜指示する。 予復修課題：シラバスを(企業会計システムの意義と機能)精読し不明な語句やその内容を調べ、ノートにまとめる:120分
授業形式	講義	科目区分	専門教育科目	専任	2	第1章意思決定機能と利害調整機能についてプレゼンテーション、ディスカッションする。 予復修課題：2回のテキストによる作成されたレジュメからディスカッションし、その重要項目等の復修をすること:120分	
配当年度	修士課程1年生	開講学期	前期				
授業概要	本講義では、財務諸表論の中級者以上程度の知識を有する学生を対象として、財務会計の制度を専門的見地から理解して財務諸表から課題解決ができることを目的とする。財務諸表は、企業を取り巻く利害関係者に対して当該企業の財政状態および経営成績に関する真実な情報を提供している。とりわけ、財務諸表は企業外部のさまざまな情報利用者に対して、信頼しうる有用な情報を提供することを使命としているので、理論と実務の両側面からアプローチし学修する。なお、原則毎回担当者は論文等を提出する。						
	授業到達目標	1. 財務諸表である貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書の機能とその関連性が理解できる。 2. 財務諸表は国内の法律や欧米の会計基準の影響を受けるため、専門性の高い会計の理論とその制度を理解できる。 3. 企業の財務諸表の応用的な会計処理ができる。					
修了認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係[◎特に関係する ○関係する]							
【知識・技能】経済・経営学における自身の専門分野の理論的な学問体系の基礎を理解し、当該専門分野の専門知識と技能を身につけている。					◎	7	予復修課題：7回のテキストによる作成されたレジュメからディスカッションし、その重要項目等の復修をすること:120分
【思考力・判断力・表現力】専門分野の知識・技能を用いて、国内外の社会の発展に貢献できる人材として、経済社会の諸問題に対する課題探求能力、課題解決能力を有するとともに適切な企画・計画力、的確な判断力とそれらを実践できる力を身につけている。また、専門性の高い理論を修得し、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見いだすための指導・教育に寄与する能力を身につけている。					○	8	予復修課題：8回のテキストによる作成されたレジュメからディスカッションし、その重要項目等の復修をすること:120分
【主体性・協働性】専門性を併せ持った経済・生産活動の担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、社会の一員として、自ら進んで他者と協働して経済の発展と社会への貢献に寄与できる力を身につけている。					○	9	予復修課題：9回のテキストによる作成されたレジュメからディスカッションし、その重要項目等の復修をすること:120分
成績評価の方法(全体で100%)			履修における留意事項				
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	授業実施方法・内容は追加・変更になることがある。授業には欠席しないよう心掛けること。				
1. 小テスト、感想文など		%	第2～15回の予復修課題： 講義の範囲を精読し、不明な語句やその内容を調べ、ノートにまとめること。				
2. 中間テスト		%					
3. 課題レポートなどの提出物		%					
4. 授業中の発表、討論		40 %					
5. 授業への参加意欲		20 %					
6. 自主的学修(予修・復修など)		%					
7.		%					
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング					
1. まとめのテスト		%	PBL(課題解決型学習など)、事前学習型授業				
2. 論文、まとめのレポートなど		40 %	ディスカッション、プレゼンテーション				
3.		%					
再評価の実施	する	しない	○				
教科書	詳解財務会計論(星野一郎著、同文館出版)						
参考書							
					15	予復修課題：15回のテキストによる作成されたレジュメからディスカッションし、その重要項目等の復修をすること:120分	

*領域区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

**授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず「UNIVERSAL PASSPORT」で確認してください。

授業科目名 (Subject)	租税特論 Advanced Lectures on Theory of Taxation			単位数	授業内容**	
担当者	石川 達哉 (ISHIKAWA Tatsuya)			2	1	ガイダンス：講義の進め方、授業各回で取扱うテーマの概要と適用するミクロ経済学の考え方を説明する。 予復修課題：授業時に指示(予復修目安時間180分)
授業形式	講義	科目区分	専門教育科目	専任	2	租税原則と租税理論：公平・中立・簡素に代表される租税原則、応能・応益の観点、包括的所得税論・支出税論・最適課税論などを解説した後、受講者の討議を促す。 予復修課題：授業時に指示(予復修目安時間180分)
配当年次	修士課程1年生	開講学期	後期			
授業概要	日本の租税制度並びに社会保障制度の具体的な内容について、解説を行う。そのうえで、ミクロ経済学の枠組みを用いて、租税の帰着と死荷重について考察する。個別消費税の効果については、生産者納税及び消費者納税のケースを想定して、部分均衡モデルを用いる。消費と余暇の選択に対する賃金課税の誘因効果、現在の消費と将来の消費に対する利子課税の誘因効果については、予算制約式と効用関数を明示的に考慮する一般均衡モデルを用いる。また、地方税固有のトピックスとして、租税競争、租税輸出に関する理論の解説を行う。				3	日本の租税体系：日本の国税及び地方税における租税体系について解説し、現実のデータを用いて代表的な税目を紹介し、他の先進国との比較も行う。自由討議も行う。 予復修課題：授業時に指示(予復修目安時間180分)
	授業到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 日本の租税体系と主要な税目について、概要を説明できる。 余剰分析の枠組みを用いて、課税に伴う死荷重についての説明と大きさの計算ができる。 所得税と消費税の等価性について、説明できる。 消費税の軽減税率の意義と問題点について、効率と公平の観点から説明できる。 地方における独自課税と超過課税の意義と問題点について、説明できる。 				4
修了認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕					5	個別消費税の効果(1)生産者納税と消費者納税の比較：生産者納税の場合と消費者納税の場合における租税の帰着、死荷重、価格弾力性の影響を解説した後、演習問題に取組む。 予復修課題：授業時に指示(予復修目安時間180分)
【知識・技能】経済・経営学における自身の専門分野の理論的な学問体系の基礎を理解し、当該専門分野の専門知識と技能を身につけている。				◎	7	日本の所得課税(1)所得税：所得を課税ベースとする税目として、個人に課される所得税の仕組みと実態について解説する。 予復修課題：授業時に指示(予復修目安時間180分)
【思考力・判断力・表現力】専門分野の知識・技能を用いて、国内外の社会の発展に貢献できる人材として、経済社会の諸問題に対する課題探求能力、課題解決能力を有するとともに適切な企画・計画力、的確な判断力とそれらを実践できる力を身につけている。また、専門性の高い理論を修得し、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見いだすための指導・教育に寄与する能力を身につけている。				○	8	所得税の経済効果(1)賃金課税の効果：余暇と消費から効用を得る個人を前提に一般均衡分析の枠組みで賃金課税による労働供給への影響と死荷重を解説し演習問題に取組む。 予復修課題：授業時に指示(予復修目安時間180分)
【主体性・協働性】専門性を併せ持った経済・生産活動の担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、社会の一員として、自ら進んで他者と協働して経済の発展と社会への貢献に寄与できる力を身につけている。				○	9	所得税の経済効果(2)利子課税の効果：現在の消費と将来の消費から効用を得る個人を前提に一般均衡分析の枠組みで利子課税による貯蓄への影響と死荷重を解説し演習問題に取組む 予復修課題：授業時に指示(予復修目安時間180分)
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項		
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合	経済学部で開講している「租税制度」や「財政学」と共通するテーマは、理論面を重視した上級編の内容とし、マクロ経済学やミクロ経済学における理論が租税制度の分析・考察にどのように応用されているかに重きを置いて、理論が妥当する現実の事例を受講者自らが見出せるよう誘導する。また、必要に応じて、最近の学術研究動向も紹介する。				
1. 小テスト、感想文など	%	アクティブ・ラーニング 第2, 3, 5, 6, 8, 9, 11, 12, 14回の授業は講義方式と演習方式の折衷的な運営とする。受講者による発表と自由討議を重視し、教員による解説や質疑応答で補足しつつ、双方向の議論を実践する				
2. 中間テスト	%					
3. 課題レポートなどの提出物	20 %					
4. 授業中の発表、討論	%					
5. 授業への参加意欲	30 %					
6. 自主的学修(予修・復修など)	%					
7.	%					
2) 最終到達度の評価						
1. まとめのテスト	50 %	アクティブ・ラーニング 第2, 3, 5, 6, 8, 9, 11, 12, 14回の授業は講義方式と演習方式の折衷的な運営とする。受講者による発表と自由討議を重視し、教員による解説や質疑応答で補足しつつ、双方向の議論を実践する				
2. 論文、まとめのレポートなど	%					
3.	%					
再評価の実施	する ○ しない					
教科書	テキストブック租税論(篠原正博著、創成社)					
参考書	スティグリッツ 公共経済学(第2版)下(スティグリッツ, J. E著/戴下史郎訳、東洋経済新報社)					
					15	総括：これまでの講義内容の総括を行うとともに、まとめのテストを実施する。 予復修課題：授業時に指示(予復修目安時間600分)

*領域区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

**授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず「UNIVERSAL PASSPORT」で確認してください。

授業科目名 (Subject)	ファイナンス特論 Advanced Lectures on Finance			単位数	授業内容**	
	担当者	末木 将史(SUEKI Masachika)			2	1 ガイダンス：授業の進め方、使用テキストについてのコメント、情報サイトの紹介、ソフトウェアのインストールおよび設定目標とプロジェクトマネジメントの説明 予復修課題：PCへのブックマーク登録、ソフトインストール、テンプレート作成等を完了させる(取組時間0.5h)
授業形式	講義	科目区分	専門教育科目	専任	2 企業の資金調達と財務構成の戦略：資金使途と調達手段の対応関係、それらが財務構成に与える影響などを考える。Active Learning(AL)：討論を基に共同レポート作成 予復修課題：財務分析の基礎を予修のこと(取組時間2.0h)	
配当年次	修士課程1年生	開講学期	後期		3 投資、および企業買収のキャッシュフロー：投資や企業買収がもたらすキャッシュフローや、その時間割引の考え方を学ぶ。AL：討論を基に共同レポート作成 予復修課題：キャッシュフローの概念モデルについて予修のこと(取組時間2.0h)	
授業概要	企業金融論と証券投資論の両面からのアプローチを通じてファイナンスの概要を把握する。他人資本と自己資本が及ぼす企業財務的な影響を踏まえた発行体企業側の意図と戦略と、投資家側の予想リスク・リターンを踏まえた期待形成との対応を分析する。発行体企業側の戦略を巡っては、財務リスクやコントロール(時価発行や株式分割、自社株買いなど)、及びコーポレートガバナンス等の要因関係について理解することを目的とする。教員のコンサルティング会社及びデータ分析会社での経験を基に、ロジカル・シンキングの視点を取り入れる。				4 資金調達コストの考え方、銀行借入コストと資本コスト：リスク、および予想リスクを考慮した資金調達コストの考え方を学ぶ。AL：討論を基に共同レポート作成 予復修課題：リスクと予想リスクの概念の違いについて予修のこと(取組時間2.0h)	
	授業到達目標	ミクロ経済学、特に情報の経済学の理論的内容を踏まえた上で、論理整合性が取れた証券投資および企業財務を理解することができる。論理を理解しているだけでなく、データを活用して実際の投資判断や財務意思決定をすることができる。				5 モジリアーニ・ミラーの定理と資金調達手段、企業価値との関係：資金調達手段が企業価値に与える影響について理論と実証の両面から考える。AL：討論を基に共同レポート作成 予復修課題：モジリアーニ・ミラーの定義証明手法について予修のこと(取組時間2.0h)
修了認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係[◎特に関係する ○関係する]				6 経営と所有の分離、情報の非対称性、利益相反問題及びコーポレートガバナンス資金調達の際に経営と所有の分離から生じる情報と管理の問題について論じる。AL：共同レポート 予復修課題：資金調達手法の違いによるコスト・ベネフィットについて復修のこと(取組時間2.0h)		
【知識・技能】経済・経営学における自身の専門分野の理論的な学問体系の基礎を理解し、当該専門分野の専門知識と技能を身につけている。				○	7 伝統的証券投資論①、ファンダメンタル分析の考え方：企業側と投資家側の両サイドから企業財務に対する考え方の異同を学ぶ。AL：討論を基に共同レポート作成 予復修課題：情報開示制度と市場の効率性の関係について復修のこと(取組時間2.0h)	
【思考力・判断力・表現力】専門分野の知識・技能を用いて、国内外の社会の発展に貢献できる人材として、経済社会の諸問題に対する課題探求能力、課題解決能力を有するとともに適切な企画・計画力、的確な判断力とそれらを実践できる力を身につけている。また、専門性の高い理論を修得し、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見いだすための指導・教育に寄与する能力を身につけている。				◎	8 伝統的証券投資論②、企業・財務分析と資本政策：授業/各種財務指標が投資家の期待形成に及ぼすメカニズムについて学ぶ。演習/簡易演習(モデル作成とデータ分析) 予復修課題：各種財務指標の意味内容を理解すること(取組時間2.0h)	
【主体性・協働性】専門性を併せ持った経済・生産活動の担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、社会の一員として、自ら進んで他者と協働して経済の発展と社会への貢献に寄与できる力を身につけている。				○	9 伝統的証券投資論③、株式・債券分析：各種市場指標が投資家の期待形成に及ぼすメカニズムについて学ぶ。AL：討論を基に共同レポート作成 予復修課題：各種市場指標の意味内容を理解すること(取組時間2.0h)	
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項		
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	PCは授業参加の上で必須です。ネットからデータをDL(ダウンロード)して分析に活用してもらいます。プログラミングは必須ではありませんが、スプレッドシートは使いこなせることが必須です。			
1. 小テスト、感想文など		%				
2. 中間テスト		%				
3. 課題レポートなどの提出物		%				
4. 授業中の発表、討論		30 %				
5. 授業への参加意欲		10 %				
6. 自主的学修(予修・復修など)		20 %				
7. アプリやソフトの活用		20 %				
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト		20 %	調査学習、ミニッツペーパー・レポート			
2. 論文、まとめのレポートなど		%				
3.		%				
再評価の実施		する ○ しない				
教科書	金融工学入門 第2版(D.ルーエンバーガー(著)、今野浩、他(訳)、日本経済新聞社)					
参考書	証券論(大村敬一・俊野雅司著、有斐閣)					
	ミクロ経済学の力(神取道宏著、日本評論社)					
				10 現代的証券投資論①、現代的投資理論(MPT)の考え方：ポートフォリオ理論の前提、数式展開、理論が示す意味内容を学ぶ。AL：討論を基に共同レポート作成 予復修課題：分散・共分散と相関係数が数式上で意味する内容を理解すること(取組時間2.0h)		
				11 現代的証券投資論②、分散効果と効率性フロンティア：分散効果が効率性フロンティアに至る論理について学ぶ。AL：討論を基に共同レポート作成 予復修課題：自ら、効率性フロンティアをデータを用いて導出してみる(取組時間2.0h)		
				12 現代的証券投資論③、ベータ(β)の導入とCAPM：ポートフォリオ理論におけるベータの位置づけ、意味内容を学ぶ。AL：討論を基に共同レポート作成 予復修課題：自ら、データを用いてベータを算出してみる(取組時間2.0h)		
				13 現代的証券投資論④、資本市場線と証券市場線：多様な収益率概念とリスクを考慮した投資パフォーマンス評価を学ぶ。AL：討論を基に共同レポート作成 予復修課題：ベータ、CAPM、パフォーマンス評価の一連の関係について復修のこと(取組時間2.0h)		
				14 まとめ①伝統的投資論と現代的投資論の整理と比較：授業/論理前提、企業財務と投資尺度および市場情報との関係を整理し比較する。まとめのテスト：まとめ①に関するテスト 予復修課題：伝統的投資論①～③、現代的投資論①～④を復修のこと(取組時間2.0h)		
				15 まとめ②企業財務戦略と投資家の反応、および制度的仕組みについて：授業/第14回を踏まえて第1～6回の内容を対比し整理する。まとめのテスト：まとめ②に関するテスト 予復修課題：第1～6回の内容を予復修のこと(取組時間1.0h)		

*領域区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

**授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず「UNIVERSAL PASSPORT」で確認してください。

授業科目名 (Subject)	財務分析特論 Advanced Lectures on Financial Analysis			単位数	2	授業内容**	
	担当者	梅田 勝利 (UMEDA Katsutoshi)		専任		1	ガイダンス：シラバスについて説明する。 予復修課題：予：教科書序章を読み、不明な語句を調べ、まとめる 復：序章を要約し、提出(各2時間)
授業形式	講義	科目区分	専門教育科目			2	企業価値評価のフレームワーク：企業価値とは何かなどについて説明する。 予復修課題：予：教科書第2章を読み、不明な語句を調べ、まとめる 復：第2章末尾の演習問題を解き、提出(各2時間)
配当年度	修士課程1年生	開講学期	後期				
授業概要	本講義では、経営環境の分析、業界の特性と動向の把握、企業価値向上を目的とした経営戦略の策定、経営目的を実現するための経営管理体制の整備といった諸課題をエビデンスに基づいて、経営現象を論理的に分析・解明する能力の向上を図る。具体的には、経営戦略、組織行動・人的資源管理、マーケティングに関する理論やフレームワークを体系的に学修し、それらに即した財務分析手法を修得する。					3	財務諸表から読む企業活動：企業の経営成績を理解することなどについて説明する。 第1回プレゼンテーションの実施。 予復修課題：予：教科書第3章を読み、不明な語句を調べ、まとめる 復：第3章末尾の演習問題を解き、提出(各2時間)
	授業到達目標	1. サステナブルな企業価値創造とは何かについて、説明することができる。 2. 企業価値評価のフレームワークについて、具体的に述べるすることができる。 3. 戦略的ファンダメンタル分析によって、企業の現状と課題を列挙することができる。 4. 加重平均資本コストを算出・活用して、資本構成の最適化を意図することができる。					4
修了認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係[◎特に関係する ○関係する]						5	経営戦略分析：経営戦略分析のためのフレームワークなどについて説明する。 予復修課題：予：教科書第5章を読み、不明な語句を調べ、まとめる 復：第5章末尾の演習問題を解き、提出(各2時間)
【知識・技能】経済・経営学における自身の専門分野の理論的な学問体系の基礎を理解し、当該専門分野の専門知識と技能を身につけている。					◎	6	会計戦略分析：会計利益の特性などについて説明する。 第2回プレゼンテーションの実施。 予復修課題：予：教科書第6章を読み、不明な語句を調べ、まとめる 復：第6章末尾の演習問題を解き、提出(各2時間)
【思考力・判断力・表現力】専門分野の知識・技能を用いて、国内外の社会の発展に貢献できる人材として、経済社会の諸問題に対する課題探求能力、課題解決能力を有するとともに適切な企画・計画力、的確な判断力とそれらを実践できる力を身につけている。また、専門性の高い理論を修得し、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見いだすための指導・教育に寄与する能力を身につけている。					○	7	ケース・スタディー 建設機械業界のファンダメンタル分析：建設機械業界の現状などについて説明する。 予復修課題：予：教科書第7章を読み、不明な語句を調べ、まとめる 復：第7章末尾の演習問題を解き、提出(各2時間)
【主体性・協働性】専門性を併せ持った経済・生産活動の担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、社会の一員として、自ら進んで他者と協働して経済の発展と社会への貢献に寄与できる力を身につけている。					○	8	企業価値とバリュエーション：投資プロジェクトの評価などについて説明する。 予復修課題：予：教科書第8章を読み、不明な語句を調べ、まとめる 復：第8章末尾の演習問題を解き、提出(各2時間)
成績評価の方法(全体で100%)					履修における留意事項		
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	事前学習(予修)として、前回の授業において指示された教科書部分を熟読すること。				
1. 小テスト、感想文など		%	事後学習(復修)として、各章末の演習問題を解き、各自が授業内容に照らして、正答を確認しておくこと。				
2. 中間テスト		%	疑問点などがあれば、次回の授業開始時に質問すること。				
3. 課題レポートなどの提出物		%					
4. 授業中の発表、討論		40 %					
5. 授業への参加意欲		10 %					
6. 自主的学修(予修・復修など)		%					
7.		%					
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング					
1. まとめのテスト		%	プレゼンテーション				
2. 論文、まとめのレポートなど		50 %	ミニッツペーパー・レポート				
3.		%					
再評価の実施	する	しない	○				
教科書	新・企業価値評価(伊藤邦雄著、日本経済新聞出版社) 企業価値経営(伊藤邦雄著、日本経済新聞出版社)					10	予復修課題：予：教科書第10章を読み、不明な語句を調べ、まとめる 復：第10章末尾の演習問題を解き、提出(各2時間)
参考書	企業価値評価 第6版[上][下](マッキンゼー・アンド・カンパニー、ダイヤモンド社)					11	ケース・スタディー ユナイテッドアローズの企業価値評価：企業価値評価の実践などについて説明する。 予復修課題：予：教科書第11章を読み、不明な語句を調べ、まとめる 復：第11章末尾の演習問題を解き、提出(各2時間)
						12	EVAバリュエーション：EVAの概念と特徴などについて説明する。第4回プレゼンテーションの実施。 予復修課題：予：教科書第12章を読み、不明な語句を調べ、まとめる 復：第12章末尾の演習問題を解き、提出(各2時間)
						13	企業価値最大化のためのM&A戦略：M&Aと企業価値経営などについて説明する。 予復修課題：予：教科書第13章を読み、不明な語句を調べ、まとめる 復：第13章末尾の演習問題を解き、提出(各2時間)
						14	無形資産の価値評価と戦略的活用：無形資産の戦略的評価などについて説明する。 予復修課題：予：教科書第14章を読み、不明な語句を調べ、まとめる 復：第14章末尾の演習問題を解き、提出(各2時間)
						15	講義の総括。まとめのレポートの提出、まとめとしてのプレゼンテーションの実施。 予復修課題：予復：教科書第1～14章を読み、不明な語句を調べ、まとめる。 末尾の演習問題を解き、提出(各2時間)

*領域区分の略号表は巻頭索引ページにあります。 **授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず「UNIVERSAL PASSPORT」で確認してください。

授業科目名 (Subject)	多国籍企業特論 Advanced Lectures on Multinational Corporations			単位数	授業内容**	
担当者	水戸 康夫 (MITO Yasuo)			専任	1	イントロダクション：履修学生の知識に応じて講義を行うので、必要な知識に関する情報を提示する。学生に対して提示された知識に関する説明を求め、コメント等を行う。 予復修課題： シラバスを読み込んで、必要な知識を調べておく：予復修時間120分
授業形式	講義	科目区分	専門教育科目		2	直接投資の理論の紹介：ハイマーの理論、内部化理論、OLIパラダイム、プロダクト・サイクル理論についての説明を求める。説明に対してコメント等を行う。 予復修課題： ハイマーの理論などについて予復修する：予復修時間120分
配当年度	修士課程1年生	開講学期	後期		3	海外子会社は本社の指示通りに行動するのか。指示通りに行動しなかった事例を紹介すること、そのことに対する説明を求める。説明に対してコメント等を行う。 予復修課題： 組織に関わる文献について予復修する：予復修時間120分
授業概要	日本企業の対外直接投資が1970年代に多く見られるようになったことから、多国籍企業となった日本企業が多く出現し、日本本社の輸出よりも海外子会社の輸出の比重が高まり、その結果として、海外子会社の動向が日本経済や貿易収支に対して無視しえない影響を及ぼすようになった。本講義では、海外子会社の行動は、日本本社の国際経営戦略の制約の下での行動であることから、日本本社の意思決定とともに、海外子会社社長の意思決定も影響を与えると見なして、授業を行なう。				4	海外子会社は本社の指示通りに行動しなかった場合に予想される事態。指示通りに行動しなかったときに生じた事態を紹介すること、そのことに対する説明を求める。 予復修課題： グローバル経営等の文献に書かれている事例について予復修する：予復修時間120分
授業到達目標	目標は2つあり、有力な対外直接投資理論を理解し、理論に基づいて現実を説明できるようになること 海外子会社のほとんどは本社の指示通りに行動するが、一部の海外子会社はそうでないことを理解することによって、現実の国際経済について説明できるようになること である。				5	海外子会社が本社の指示通りに行動することは正しいことなのか。妥当な場合と妥当でない場合が存在することを紹介すること、そのことに対する説明を求める。 予復修課題： グローバル経営等の文献に書かれている事例について予復修する：予復修時間120分
修了認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係[◎特に関係する ○関係する]						
【知識・技能】 経済・経営学における自身の専門分野の理論的な学問体系の基礎を理解し、当該専門分野の専門知識と技能を身につけている。				○	7	海外子会社社長に現地人を充てると、指示通りに行動しない可能性は高いのか。報告書や文献によれば高いと見るか否かとその理由についての説明を求める。 予復修課題： 参考文献として吉原(1992)が存在しており、吉原(1992)について予復修する：予復修時間300分
【思考力・判断力・表現力】 専門分野の知識・技能を用いて、国内外の社会の発展に貢献できる人材として、経済社会の諸問題に対する課題探求能力、課題解決能力を有するとともに適切な企画・計画力、的確な判断力とそれらを実践できる力を身につけている。また、専門性の高い理論を修得し、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見いだすための指導・教育に寄与する能力を身につけている。				◎	8	現地人社長であっても、指示通りに行動するような工夫は可能なのか1 日本人派遣社員による監視によって可能であるのか否かとその理由についての説明を求める。 予復修課題： 参考文献である浅川(2003)・吉原(1992)について予復修する：予復修時間120分
【主体性・協働性】 専門性を併せ持った経済・生産活動の担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、社会の一員として、自ら進んで他者と協働して経済の発展と社会への貢献に寄与できる力を身につけている。				○	9	現地人社長であっても、指示通りに行動するような工夫は可能なのか2 現地人社長とするメリットは、工夫のためのコストよりも大きいのか否かとその理由について説明を求める 予復修課題： 参考文献である浅川(2003)・吉原(1992)について予復修する：予復修時間120分
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項		
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	国際経営学および国際経済学と国際人的資源論についての基礎知識を持っていることを前提に			
1. 小テスト、感想文など		%	授業を行なうことを理解して履修申告を行なう			
2. 中間テスト		%	してほしい。当然、予修は必須である。習得努力が十分ではなく、予修が十分には行われていないと判断された学生は、単位取得が厳しいことへの留意が必要である。			
3. 課題レポートなどの提出物		%				
4. 授業中の発表、討論		50 %				
5. 授業への参加意欲		%				
6. 自主的学修(予修・復修など)		%				
7.		%				
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト		%	ディスカッション			
2. 論文、まとめのレポートなど		%				
3. 予修したことに基づく発表内容		50 %				
再評価の実施		する	しない	○		
教科書	海外子会社の意思決定ーグローバル化時代の解き戦略ー(水戸康夫著、創成社)					
参考書	グローバル経営入門(浅川和宏著、日本経済新聞社)					
	富士ゼロックスの奇跡(吉原英樹著、東洋経済新報社)					
				15	まとめ：総括を行なうとともに、授業に対してどの程度の理解しているのかの確認をした上で、コメントを行ない、ディスカッションを行なう。 予復修課題： 第1回～第15回までの講義を復修する：予復修時間120分	

*領域区分の略号表は巻頭索引ページにあります。 **授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず「UNIVERSAL PASSPORT」で確認してください。

授業科目名 (Subject)	地域公共政策特論 Advanced Lectures on Regional Public Policies			単位数	授業内容**	
担当者	岩本 直 (IWAMOTO Naoshi)			2	専任	1 ガイダンス 本授業の概要について解説する。 予復修課題： シラバスを読んでおくこと 取組時間:120分程度
授業形式	講義	科目区分	専門教育科目			2 日本の現状と課題1 人口減少社会の課題等について理解する。 教員と学生の間で意見交換を行う。 予復修課題： 前回の授業内容を復修しておくこと 取組時間:120分程度
配当年度	修士課程1年生	開講学期	後期			3 日本の現状と課題2 日本の財政の状況と課題、九州及び福岡県、北九州市等の現状と課題について理解する。 予復修課題： 前回の授業内容を復修しておくこと 取組時間:120分程度
授業概要	現在の我が国は首都圏への一極集中が続く中、人口減少、少子高齢化や巨額の財政赤字等の問題を抱えている。本講義ではこれらの課題の発生の推移、そして政府や地方自治体等がこれらの諸課題に対し、どのような対策を行っているのか様々な事例を用いて解説する。また、今後、持続可能な社会を構築していく上で、実施すべき地域公共政策の方向性等についても解説する。					4 地域公共政策総論1 公共政策の全体概要及び推進体制、国と地方の関係等について理解する。 予復修課題： 前回の授業内容を復修しておくこと 取組時間:120分程度
授業到達目標	1. 地方自治体等が直面する諸課題の現状、原因、背景について理解できる。 2. これまで実施されてきた地域公共政策の概要と結果について理解できる。 3. 地域課題に対する地域公共政策の取り組み事例について理解できる。 4. 地域課題に対する解決方法等の提案ができる。					5 地域公共政策総論2 地方自治体による推進事業の内容及び特徴等について理解する。 予復修課題： 前回の授業内容を復修しておくこと 取組時間:120分程度
修了認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係[◎特に関係する ○関係する]						
【知識・技能】 経済・経営学における自身の専門分野の理論的な学問体系の基礎を理解し、当該専門分野の専門知識と技能を身につけている。				◎		7 産業政策及び国土政策の推移、現状と課題について理解する。 予復修課題： 前回の授業内容を復修しておくこと 取組時間:120分程度
【思考力・判断力・表現力】 専門分野の知識・技能を用いて、国内外の社会の発展に貢献できる人材として、経済社会の諸問題に対する課題探求能力、課題解決能力を有するとともに適切な企画・計画力、的確な判断力とそれらを実践できる力を身につけている。また、専門性の高い理論を修得し、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見いだすための指導・教育に寄与する能力を身につけている。				○		8 地域公共政策各論2 エネルギー政策の推移、現状と課題について理解する。 予復修課題： 前回の授業内容を復修しておくこと 取組時間:120分程度
【主体性・協働性】 専門性を併せ持った経済・生産活動の担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、社会の一員として、自ら進んで他者と協働して経済の発展と社会への貢献に寄与できる力を身につけている。				○		9 地域公共政策各論3 観光政策の推移、現状と課題について理解する。 教員と学生の間で意見交換を行う。 予復修課題： 前回の授業内容を復修しておくこと 取組時間:120分程度
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項		
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	疑問点は授業の際に質問する等、早めに解消してください。			
1. 小テスト、感想文など		%				
2. 中間テスト		%				
3. 課題レポートなどの提出物		50 %				
4. 授業中の発表、討論		%				
5. 授業への参加意欲		50 %				
6. 自主的学修(予修・復修など)		%				
7.		%				
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト		%	授業で教員と学生との間で意見交換を行う場合がある。			
2. 論文、まとめのレポートなど		%				
3.		%				
再評価の実施	する	しない	○			
教科書	特定の教科書は使用しません。					
参考書	参考書は適宜紹介します。					
						10 地域公共政策各論4 都市政策及び中心市街地活性化政策の推移と課題、海外の都市政策の推移等を理解する。 予復修課題： 前回の授業内容を復修しておくこと 取組時間:120分程度
						11 地域公共政策各論5 医療政策の推移、現状と課題について理解する。 予復修課題： 前回の授業内容を復修しておくこと 取組時間:120分程度
						12 地域公共政策各論6 福祉政策の推移、現状と課題について理解する。 教員と学生の間で意見交換を行う。 予復修課題： 前回の授業内容を復修しておくこと 取組時間:120分程度
						13 地域公共政策各論7 農業政策の推移、現状と課題について理解する。 教員と学生の間で意見交換を行う。 予復修課題： 前回の授業内容を復修しておくこと 取組時間:120分程度
						14 地域公共政策各論8 林業政策及び水産政策、地域資源活用事業の推移、現状と課題について理解する。 予復修課題： 前回の授業内容を復修しておくこと 取組時間:120分程度
						15 地域公共政策各論9、総括 防災政策の推移、現状と課題、今後の地域公共政策の方向性について理解する。 予復修課題： 前回の授業内容を復修しておくこと 取組時間:120分程度

* 領域区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

** 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず「UNIVERSAL PASSPORT」で確認してください。

授業科目名 (Subject)	マーケティング特論 Advanced Lectures on Marketing			単位数	授業内容**	
担当者	國崎 歩 (KUNISAKI Ayumi)			2	専任	1 講義ガイダンス 本講義の概要と導入的講義を行う。 予復修課題： 事前にシラバスを確認し講義内容を理解しておくこと。(4時間程度)
授業形式	講義	科目区分	専門教育科目			2 マーケティング研究の歴史の変遷 伝統的マーケティングから現代にかけてのマーケティング研究の変遷について理解する。 予復修課題： マーケティング1.0～3.0までの変遷について予復修を行うこと。(4時間程度)
配当年度	修士課程1年生	開講学期	後期			3 企業の社会的責任とソーシャルマーケティング コンシューマリズムとCSR及びソーシャルマーケティングの関係性を理解する。 予復修課題： 授業(教材含む)の予復修を行うこと。(4時間程度)
授業概要	本講義ではデジタル・イノベーションにより展開した過程として製品中心のマーケティング(1.0)、顧客中心のマーケティング(2.0)、人間中心のマーケティング(3.0)、一体化中心のマーケティング(4.0)を取上げ、伝統的マーケティングの理解と実践、伝統的マーケティングのデジタル・マーケティングへの応用と統合といった理論の修得を主要目的として、現在および未来に適したマーケティング手法を考察し、論理的に分析・解明する能力の向上を図る。					4 消費者行動研究とマーケティング 消費者行動分析の歴史、消費者の購買行動の意思決定プロセスの分析方法を理解する。 予復修課題： 授業(教材含む)の予復修を行うこと。(4時間程度)
授業到達目標	<ul style="list-style-type: none"> マーケティングの本質について理解しマーケティング戦略について説明することができる。 学修したマーケティング手法を実践することができる。 事例分析により、状況に応じた最適なマーケティング戦略を立案することができる。 					5 市場細分化とターゲット市場の設定(グループワーク、グループディスカッション) マーケットセグメンテーション、各種ターゲットアプローチを理解し事例分析を行う。 予復修課題： 授業(教材含む)の予復修を行うこと。(4時間程度)
修了認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係[◎特に関係する ○関係する]						
【知識・技能】	経済・経営学における自身の専門分野の理論的な学問体系の基礎を理解し、当該専門分野の専門知識と技能を身につけている。			◎		7 マーケティング戦略②製品政策 顧客価値の創造、新製品開発等について事例分析を行い製品政策について理解する。 予復修課題： 授業(教材含む)の予復修を行うこと。(4時間程度)
【思考力・判断力・表現力】	専門分野の知識・技能を用いて、国内外の社会の発展に貢献できる人材として、経済社会の諸問題に対する課題探求能力、課題解決能力を有するとともに適切な企画・計画力、的確な判断力とそれらを実践できる力を身につけている。また、専門性の高い理論を修得し、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見いだすための指導・教育に寄与する能力を身につけている。			○		8 マーケティング戦略③価格政策 価格設定の意義等を中心に事例分析を行い価格政策について理解する。 予復修課題： 授業(教材含む)の予復修を行うこと。(4時間程度)
【主体性・協働性】	専門性を併せ持った経済・生産活動の担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、社会の一員として、自ら進んで他者と協働して経済の発展と社会への貢献に寄与できる力を身につけている。			○		9 マーケティング戦略④プロモーション政策 販売促進について事例分析を行い、プロモーション戦略について理解する。 予復修課題： 授業(教材含む)の予復修を行うこと。(4時間程度)
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項		
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合	講義内容の理解を深めるため、シラバスに書かれた時間を目安にしてを予復修を行い、次の授業に臨んでください。				10 マーケティング戦略⑤チャネル政策 事例分析によりマーケティングチャネルの類型と流通チャネル戦略の特徴を理解する。 予復修課題： 授業(教材含む)の予復修を行うこと。(4時間程度)
1. 小テスト、感想文など	%					11 マーケティング戦略⑥経営資源の配分とPPM分析(グループワーク、グループディスカッション) 経営資源の配分及びPPM分析の意義と手法について実際の事例分析を通して理解する。 予復修課題： 授業(教材含む)の予復修を行うこと。(4時間程度)
2. 中間テスト	%					12 マーケティング戦略⑦競争的地位によるマーケティング戦略(グループワーク、グループディスカッション) 市場での競争的地位の4類型と各々最適なマーケティング戦略について事例分析を行う。 予復修課題： 授業(教材含む)の予復修を行うこと。(4時間程度)
3. 課題レポートなどの提出物	20 %					13 伝統的マーケティングからデジタル・マーケティングへの移行 デジタル経済におけるマーケティング4.0に関し3つの主要セグメントを中心に理解する。 予復修課題： 授業(教材含む)の予復修を行うこと。(4時間程度)
4. 授業中の発表、討論	20 %					14 デジタル経済におけるマーケティングの戦術的応用 コンテンツ・マーケティング等の現代に必要とされる新たなマーケティングを理解する。 予復修課題： 授業(教材含む)の予復修を行うこと。(4時間程度)
5. 授業への参加意欲	20 %					15 プレゼンテーション これまでの各自の事例分析をもとに、まとめのレポート提出とプレゼンテーションを行う 予復修課題： 授業(教材含む)の予復修を行うこと。(4時間程度)
6. 自主的学修(予修・復修など)	%					
7.	%					
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト	%	グループワーク、グループディスカッション				
2. 論文、まとめのレポートなど	40 %	(第5, 6, 11, 12回)				
3.	%	プレゼンテーション(第15回)				
再評価の実施	する	しない	○			
教科書						
参考書	コトラーのマーケティング4.0(フィリップ・コトラー他(恩蔵直人訳)、朝日新聞出版)					

*領域区分の略号表は巻頭索引ページにあります。 **授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず「UNIVERSAL PASSPORT」で確認してください。

授業科目名 (Subject)	修士論文作成指導 Research Guidance for Master's Thesis			単位数	授業内容**	
担当者	入江 雅仁 (IRIE Masahito)		國崎 歩 (KUNISAKI Ayumi)		専任	1 ガイダンスおよび研究テーマの確定： シラバスをもとに講義の進め方を説明し、各自の研究テーマを確定・報告してもらう。 予復修課題：修士論文に関係する研究テーマの候補を具体的に考えておくこと。(4時間程度)
授業形式	演習	科目区分	修士研究科目			2 学位・学位論文に関する法令・規則の確認： 学位・学位論文および各自の研究テーマに関する法令や規則を確認してもらう。 予復修課題：各自の研究テーマに関連する法令や規則を調べておくこと。(4時間程度)
配当年度	修士課程1年生	開講学期	前期			3 研究方法のフレームワーク： 一般的な研究方法のフレームワークを調べたうえで、各自の研究方法を確認してもらう。 予復修課題：一般的な研究方法を調べて、整理しておくこと。(4時間程度)
授業概要	本講義では、修士論文最大の目的である「自己の独創的意見を形成・主張する」ための技術的な方法の修得を主要目的として、論文作成の具体的な手順や統計解析・多変量解析について理解し、統計解析ソフトウェアや地域経済分析システム (RESAS) を活用して、論理的に自己の独創的意見を主張・展開する能力の向上を図る。					4 文献・資料の収集 (反転授業)： 各自の研究テーマに関連する文献・資料などを収集・報告してもらう。 予復修課題：各自の研究テーマに関連する文献・資料などを調べておくこと。(4時間程度)
授業到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 研究倫理、および、研究論文の種類や構成などを理解し、修士論文の原案を作成できる。 修士論文の作成に必要な文献検索や調査の手法を修得し、先行研究を批判的に検討できる。 統計解析ソフトウェアや地域経済分析システム (RESAS) を活用し、意見の裏付けとなる根拠を示すことができる。 修士論文に関連する研究のプレゼンテーション資料を作成できる。 					5 地域経済分析システム (RESAS) を活用したデータの収集： 地域経済分析システム (RESAS) で各自の研究テーマに関するデータを収集してもらう。 予復修課題：地域経済分析システム (RESAS) の利用方法を修得しておくこと。(4時間程度)
修了認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係[◎特に関係する ○関係する]						
【知識・技能】	経済・経営学における自身の専門分野の理論的な学問体系の基礎を理解し、当該専門分野の専門知識と技能を身につけている。				○	7 経済・経営問題に対する仮説検定： 典型的な仮説検定の方法を調べたうえで、各自の仮説を検定してもらう。 予復修課題：各自の研究テーマに関連する仮説検定の方法を調べておくこと。(4時間程度)
【思考力・判断力・表現力】	専門分野の知識・技能を用いて、国内外の社会の発展に貢献できる人材として、経済社会の諸問題に対する課題探求能力、課題解決能力を有するとともに適切な企画・計画力、的確な判断力とそれらを実践できる力を身につけている。また、専門性の高い理論を修得し、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見いだすための指導・教育に寄与する能力を身につけている。				◎	8 独創的意見の形成： 先行研究の論点を踏まえた上で、自己の独創的意見を形成してもらう。 予復修課題：先行研究の論点を整理し、各自の論点を見出しておくこと。(4時間程度)
【主体性・協働性】	専門性を併せ持った経済・生産活動の担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、社会の一員として、自ら進んで他者と協働して経済の発展と社会への貢献に寄与できる力を身につけている。				○	9 典型的・標準的な論文構成 (反転授業)： 典型的・標準的な論文構成を調べたうえで、各自の論文構成を確定・報告してもらう。 予復修課題：各自の論文構成を検討しておくこと。(4時間程度)
成績評価の方法(全体で100%)		履修における留意事項				
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合	修士論文の予備研究に取り組んでもらいます。また、その成果を毎回の講義で報告してもらう予定です。なお、レジュメを使用する際は人数分のレジュメを用意してください。				
1. 小テスト、感想文など	%					
2. 中間テスト	%					
3. 課題レポートなどの提出物	20 %					
4. 授業中の発表、討論	20 %					
5. 授業への参加意欲	20 %					
6. 自主的学修(予修・復修など)	%					
7.	%					
2) 最終到達度の評価	アクティブ・ラーニング					
1. まとめのテスト	%	ディスカッション、プレゼンテーション、				
2. 論文、まとめのレポートなど	40 %	ミニッツペーパー・レポート、反転授業				
3.	%					
再評価の実施	する	しない	○			
教科書						
参考書	卒業論文・修士論文作成の要点整理実践マニュアル (滝川好夫著、税務経理協会) 思考を鍛えるレポート・論文作成法 [第3版] (井下千以子著、慶応義塾大学出版会)					
						10 文献引用の基本ルール (反転授業)： 文献引用の基本ルールを調べたうえで、各自の参考文献を作成・報告してもらう。 予復修課題：文献引用の基本ルールを理解し、各自の参考文献の情報を整理しておくこと。(4時間程度)
						11 プレゼンテーション・ファイルの作成： 修士論文のテーマに沿った予備研究の成果をスライドにまとめてもらう。 予復修課題：各自の予備研究を整理し、研究成果をまとめておくこと。(4時間程度)
						12 予備研究の発表とディスカッション (反転授業)： 修士論文のテーマに沿った予備研究の成果を発表してもらい、ディスカッションする。 予復修課題：各自の研究成果や発表資料を見直しておくこと。(4時間程度)
						13 研究レポートの作成 (1)： 各自の研究テーマに関連するレポートを作成・執筆してもらう。 予復修課題：研究レポートを執筆しておくこと。(4時間程度)
						14 研究レポートの作成 (2)： 各自の研究テーマに関連するレポートを作成・執筆してもらう。 予復修課題：研究レポートを執筆しておくこと。(4時間程度)
						15 研究レポートの報告とディスカッション (反転授業)： 各自の研究テーマに関するレポートを報告してもらい、ディスカッションする。 予復修課題：各自の研究成果やレポートを見直しておくこと。(4時間程度)

* 領域区分の略号表は巻頭索引ページにあります。 ** 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず「UNIVERSAL PASSPORT」で確認してください。

授業科目名 (Subject)		修了研究 I Research Method I		単位数	授業内容**	
担当者	甘 長青 (KAN Chousei)			2	1	修了までのスケジュール、演習の進め方、中心的な学習課題、留意事項等についてのガイダンス後、教科書の序章(「勉強が楽しい」)の内容概要を説明しポイントをおさえる。 予復修課題： 事前にシラバスや教科書『経済論文の作法』の序章を読んでおく(取組時間3時間以上)
授業形式	演習	科目区分	修了研究科目		2	教科書の第1章(「論文のテーマ探し」)の内容概要を説明し、ポイントを押さえる。受講者に自らの研究テーマ案を提示させ、当該テーマを選んだ背景や研究目的等を話し合う。 予復修課題： 教科書第1章を読んで概要を把握し、不明点があれば、整理して授業時に質問すること(取組時間3時間以上)
配当年次	修士課程1年生	開講学期	前期		3	教科書の第2章(「では執筆にとりかかろう」)の内容概要を説明し、ポイントを押さえる。受講者がパソコンを持参し内容構成を練るなどして四六時中論文を考えるよう指導する。 予復修課題： 教科書第2章を読んで概要を把握し、不明点があれば、整理して授業時に質問すること(取組時間3時間以上)
授業概要	まず希望する研究分野の担当指導教員の下で、院生自身が興味・関心を持つ研究テーマについて、どのような先行研究がどのような方法で進められてきたのかについて、リサーチした上で理解を深める。そして研究に必要な分析手法や統計・数理処理のソフトウェアの運用方法を習熟する。さらに指導教員からどの事象に注目し、どのようなメソッドで論文の構想を練り、どのような手段で研究の結果を聴き手・読み手に効果的に伝えるのかの手解きを受ける。併せて研究文献等を読む過程で要点把握能力を高め、プレゼンテーション・スキルの向上を図る。					
授業到達目標	① 経済・経営学修士論文の基本的な作法を理解し、研究文献の検索方法がわかる。 ② 統計データ処理や、ビジュアルな視覚効果が期待される複合グラフの作成ができる。 ③ 論文タイトルや注の付け方、章節立て、参考文献(特にネット上の)の表記方法がわかる。 ④ パワーポイント資料などを作成し、理路整然と自らの研究の概要を説明することができる。 ⑤ 院生が自らの研究発想のオリジナリティをどこに求めるかを理解し、他人にも説明できる。					
修了認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係[◎特に関係する ○関係する]						
【知識・技能】 経済・経営学における自身の専門分野の理論的な学問体系の基礎を理解し、当該専門分野の専門知識と技能を身につけている。				◎	7	教科書の第6章(「発表の仕方」)の内容概要を説明し、ポイントを押さえる。発表資料の作成、映写機などマシーンを使った発表や質疑応答のテクニックを練習し、マスターする。 予復修課題： 教科書第6章を読んで概要を把握し、不明点があれば、整理して授業時に質問すること(取組時間3時間以上)
【思考力・判断力・表現力】 専門分野の知識・技能を用いて、国内外の社会の発展に貢献できる人材として、経済社会の諸問題に対する課題探求能力、課題解決能力を有するとともに適切な企画・計画力、的確な判断力とそれらを実践できる力を身につけている。また、専門性の高い理論を修得し、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見いだすための指導・教育に寄与する能力を身につけている。				○	8	第1-6回の学習を踏まえて、研究文献を広く渉猟し要点を発表する。指導教員や他の受講者の意見を聴取し、必要に応じて当初の研究計画を修正し、遂行可能なものに変更する。 予復修課題： 幅広く研究文献を読んで概要を把握し、不明点があれば、整理して授業時に質問(取組時間3時間以上)
【主体性・協働性】 専門性を併せ持った経済・生産活動の担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、社会の一員として、自ら進んで他者と協働して経済の発展と社会への貢献に寄与できる力を身につけている。				○	9	学習の進捗状況を踏まえて、研究テーマ関連の文献の要点発表を重ねる。指導教員や他の受講者の意見を聴取し、必要に応じて従前の研究計画を修正し実行可能なものに変える。 予復修課題： 幅広く研究文献を読んで概要を把握し、不明点があれば、整理して授業時に質問(取組時間3時間以上)
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項		
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	指導教員から修士論文を書く際のポイントの解説等を受けてもすぐに立派なものを書けない。			
1. 小テスト、感想文など		%	発想、構成、文の組み合わせ、知識等様々な能力のほか、何より地道な努力が必要となってくる。原稿を書いた後、読み返してみたり、指導教員の添削を受けたりして不足点を把握する。			
2. 中間テスト		%	もう一度書いて、読み返して、添削を受けるプロセスを繰り返さねば、文章力が上達しない。			
3. 課題レポートなどの提出物		30 %				
4. 授業中の発表、討論		%				
5. 授業への参加意欲		%				
6. 自主的学修(予修・復修など)		20 %				
7.		%				
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング			
1. まとめのテスト		%	参考書の中に多用されている挿絵・グラフのイメージを踏まえ、ディスカッションをし関係する内容の理解を深める。(第1~14回)			
2. 論文、まとめのレポートなど		50 %	プレゼンテーション(第14~15回)、事前学習型授業			
3.		%				
再評価の実施	する	○	しない			
教科書	経済論文の作法 第3版 勉強の仕方・レポートの書き方 (小浜裕久/木村福成著、日本評論社)					
参考書	わかる!!わかる!!わかる!! 小論文&作文 (阪東恭一著、新星出版社)					
					15	受講者が前回発表時に指導教員や他の受講者から受けた指摘を踏まえ、研究背景や目的、オリジナリティの修正案を発表し、指導教員等と議論・意見交換して完成度を高める。 予復修課題： シラバスのほか、教科書『経済論文の作法』の序章を読んでおく(取組時間:3時間以上)

* 領域区分の略号表は巻頭索引ページにあります。 ** 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず「UNIVERSAL PASSPORT」で確認してください。

授業科目名 (Subject)	修了研究 I Research Method I			単位数	授業内容**	
担当者	李 只香 (LEE Jihyang)			2	専任	1 ガイダンス (1) 修了研究と修士論文： 2年間のゼミの流れを説明し、修士論文作成に必要な学習・研究について説明する。 予復修課題：希望する研究テーマと関連するキーワードを考えてくること。
授業形式	演習	科目区分	修了研究科目			2 ガイダンス (2) 研究の進め方： テーマの設定・先行研究の学習の仕方・まとめ方を説明する。 予復修課題：配布の資料や指定のテーマについて学習してくること。
配当年次	修士課程1年生	開講学期	前期			3 研究テーマの見直し (1)： 先行研究の学習により、研究の見直しや研究方法の探索を行う。 予復修課題：関連の先行研究の知見と考察点をまとめてくること。
授業概要	経営管理・組織に関連する研究を進めようとする大学院生を対象に関連の主要研究のレビューを行う。これらを踏まえ研究テーマを設定するとともに研究方向を決める。その際、問題意識や研究背景、研究の焦点を明確にしつつ、修士論文執筆に資する学習を行う。ゼミの流れは、①論文作成の計画化、②先行研究の学習による研究テーマの調整、③研究背景進捗を発表・討論し、それまでの理解をまとめたレポートとして作成する。					4 研究テーマの見直し (2)： 先行研究の学習により、研究の見直しや研究方法の探索を行う。 予復修課題：関連の先行研究の知見と考察点をまとめてくること。
授業到達目標	1. 関連の主要理論の知見が応用できる。 2. 研究方法がわかる。 3. 研究執筆要領がわかる。 4. 表現能力が高められる。					5 研究テーマの見直し (3)： 先行研究の学習により、研究の見直しや研究方法の探索を行う。 予復修課題：関連の先行研究の知見と考察点をまとめてくること。
修了認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係[◎特に関係する ○関係する]						
【知識・技能】	経済・経営学における自身の専門分野の理論的な学問体系の基礎を理解し、当該専門分野の専門知識と技能を身につけている。			◎		7 課題発表 (1)： 先行研究の学習を進めながら、研究の到達点や課題を整理する。 予復修課題：先行研究の知見と考察から、自分の研究をまとめてくること。
【思考力・判断力・表現力】	専門分野の知識・技能を用いて、国内外の社会の発展に貢献できる人材として、経済社会の諸問題に対する課題探求能力、課題解決能力を有するとともに適切な企画・計画力、的確な判断力とそれらを実践できる力を身につけている。また、専門性の高い理論を修得し、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見いだすための指導・教育に寄与する能力を身につけている。			○		8 課題発表 (2)： 先行研究の学習を進めながら、研究の到達点や課題を整理する。 予復修課題：先行研究の知見と考察から、自分の研究をまとめてくること。
【主体性・協働性】	専門性を併せ持った経済・生産活動の担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、社会の一員として、自ら進んで他者と協働して経済の発展と社会への貢献に寄与できる力を身につけている。			○		9 課題発表 (3)： 先行研究の学習を進めながら、研究の到達点や課題を整理する。 予復修課題：先行研究の知見と考察から、自分の研究をまとめてくること。
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項		
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合			1. 自分の問い(知りたいこと)を大事にし、学習の焦点がぶれないように努めてください。		
1. 小テスト、感想文など	%			2. 疑問点は、指導教員にその場で質問するなどし、早期に解消していきましょう。		
2. 中間テスト	%			3. 課題の進捗やまとめのために、4時間以上の学習を行ってください。		
3. 課題レポートなどの提出物	50 %					
4. 授業中の発表、討論	%					
5. 授業への参加意欲	%					
6. 自主的学修(予修・復修など)	50 %					
7.	%					
2) 最終到達度の評価				アクティブ・ラーニング		
1. まとめテスト	%			プレゼンテーション、事前学習型授業		
2. 論文、まとめのレポートなど	%			資料収集や専攻研究の事前学修をしてもらうほか、発表・ディスカッションを行う。また、自分の研究や課題の進捗を論文としてまとめる。		
3.	%					
再評価の実施	する	○	しない			
教科書						
参考書	社会学系論文の書き方(明石芳彦著、ミネルヴァ書房) 経営学研究法(藤本隆宏ほか著、有斐閣アルマ)					
						15 総括： 成果(まとめのレポート)を確認し、今後の課題についてアドバイスする。 予復修課題：指摘した点を補足してくること。

*領域区分の略号表は巻頭索引ページにあります。 **授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず「UNIVERSAL PASSPORT」で確認してください。

授業科目名 (Subject)	修了研究 I			単位数	授業内容**	
	Research Method I			2	1	ガイダンス：シラバスについて説明する。
担当者	梅田 勝利 (UMEDA Katsutoshi)			専任	2	予復修課題：予：教科書序章を読み、不明な語句を調べ、まとめる 復：会計指標分析のメリットと注意点をまとめ、提出 戦略思考と経営分析：財務3表と会計指標への分析アプローチについて説明する。
授業形式	演習	科目区分	修了研究科目		3	予復修課題：予：教科書序章を読み、不明な語句を調べ、まとめる 復：会計指標分析のメリットと注意点をまとめ、提出 売上高総利益率：業界特性と経営戦略を映し出す収益性の指標について説明する。
配当年次	修士課程1年生	開講学期	前期	4	第1回プレゼンテーションの実施。 予復修課題：予：教科書第1章を読み、不明な語句を調べ、まとめる 復：第1章末尾のQUIZを解答し、提出 売上高販管費率：販管費への資本投下から読む収益性の指標について説明する。	
授業概要	現代の財務分析の技法と実務について理解する。前半では多面的かつダイナミックな企業活動をいかにして豊かに解析するかについて説明する。これによって、財務分析に関する総論的な知識を得ることができる。後半ではファンダメンタル分析から企業価値算定へと展開する理論等について説明する。これによって、財務分析に関する各論的な知識を得ることができる。				5	予復修課題：予：教科書第2章を読み、不明な語句を調べ、まとめる 復：第2章末尾のQUIZを解答し、提出 損益分岐点比率：経営の安全余裕度を測る究極の収益性指標について説明する。
授業到達目標	1. サステナブルな企業価値創造とは何かについて、説明することができる。 2. 企業価値評価のフレームワークについて、具体的に述べるすることができる。 3. 戦略的ファンダメンタル分析によって、企業の現状と課題を列挙することができる。 4. 加重平均資本コストを算出・活用して、資本構成の最適化を意図することができる。				6	予復修課題：予：教科書第3章を読み、不明な語句を調べ、まとめる 復：第3章末尾のQUIZを解答し、提出 EBITDAマージン：M&Aや設備投資の影響を除いたCFに基づく収益性の指標について説明する。第2回プレゼンテーションの実施。 予復修課題：予：教科書第4章を読み、不明な語句を調べ、まとめる 復：第4章末尾のQUIZを解答し、提出
修了認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係[◎特に関係する ○関係する]						
【知識・技能】経済・経営学における自身の専門分野の理論的な学問体系の基礎を理解し、当該専門分野の専門知識と技能を身につけている。				◎	7	純資産回転率：薄利な企業のROAを牽引する資産効率性の指標について説明する。 予復修課題：予：教科書第5章を読み、不明な語句を調べ、まとめる 復：第5章末尾のQUIZを解答し、提出
【思考力・判断力・表現力】専門分野の知識・技能を用いて、国内外の社会の発展に貢献できる人材として、経済社会の諸問題に対する課題探求能力、課題解決能力を有するとともに適切な企画・計画力、的確な判断力とそれらを実践できる力を身につけている。また、専門性の高い理論を修得し、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見いだすための指導・教育に寄与する能力を身につけている。				○	8	キャッシュ・コンバージョン・サイクル：現金回収までの日数を見る資産効率性の指標について説明する。 予復修課題：予：教科書第6章を読み、不明な語句を調べ、まとめる 復：第6章末尾のQUIZを解答し、提出
【主体性・協働性】専門性を併せ持った経済・生産活動の担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、社会の一員として、自ら進んで他者と協働して経済の発展と社会への貢献に寄与できる力を身につけている。				○	9	棚卸資産回転期間：在庫の適正度を評価する資産効率性の指標について説明する。 第3回プレゼンテーションの実施。 予復修課題：予：教科書第7章を読み、不明な語句を調べ、まとめる 復：第7章末尾のQUIZを解答し、提出
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項		
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	事前学習(予修)として、前回の授業において指示された教科書部分を熟読すること。			
1. 小テスト、感想文など		%	事後学習(復修)として、各章末の演習問題を解き、各自が授業内容に照らして、正答を確認しておくこと。			
2. 中間テスト		%	疑問点などがあれば、次回の授業開始時に質問すること。			
3. 課題レポートなどの提出物		%	(予復修課題の取組時間：約4時間程度)			
4. 授業中の発表、討論		40 %				
5. 授業への参加意欲		10 %				
6. 自主的学修(予修・復修など)		%				
7.		%				
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト		%	プレゼンテーション			
2. 論文、まとめのレポートなど		50 %	ミニッツペーパー・レポート			
3.		%				
再評価の実施	する ○ しない					
教科書	戦略思考で読み解く経営分析入門(大津広一著、ダイヤモンド社)					
参考書	企業価値を創造する会計指標入門(大津広一著、ダイヤモンド社)					
	新・企業価値評価(伊藤邦雄著、日本経済新聞出版社) 企業価値経営(伊藤邦雄著、日本経済新聞出版社)					
	15				予復修課題：予復：教科書序章～第12章を読み、不明な語句を調べ、ノートにまとめる。末尾のQUIZを解答し、提出	

* 領域区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

** 授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず「UNIVERSAL PASSPORT」で確認してください。

授業科目名 (Subject)	修了研究 I			単位数	授業内容**
	Research Method I			2	
担当者	石川 達哉 (ISHIKAWA Tatsuya)			専任	1 ガイダンス：ゼミの運営方法、主要な学修課題について説明する。併せて、個人毎の面談を実施し、受講者は経済学に関する知識、分析スキル、関心のあるテーマを申告する。 予復修課題：授業時に指示(予復修目安時間180分)
授業形式	演習	科目区分	修了研究科目		2 Excelによる各種グラフの作成：Excelによる折れ線グラフ、積み上げ棒グラフ、散布図等の作成をデータ分析の出発点として位置づけ、グラフから何が読み解けるかを考える。 予復修課題：授業時に指示(予復修目安時間180分)
配当年度	修士課程1年生	開講学期	前期		3 Excelによる回帰分析：Excelの関数機能や分析機能を利用して、最小二乗法によるモデルの推定を行い、最も基本的な計量経済学の分析手法を学ぶ。 予復修課題：授業時に指示(予復修目安時間180分)
授業概要	関心のある研究領域について、どのような先行研究がどのような方法で進められてきたかを理解する。その一環として、財政学、租税論、日本経済論に属する研究分野の文献購読を行う一方、幅広い領域から研究テーマを探る。最初は「経済財政白書」を用いる。さらに、研究に必要な分析ソフトウェアおよび統計・数値処理のソフトウェアの運用を理解する。具体的にはExcel、R、E-viewsなどを実践的に利用することで分析手法も修得する				4 文献購読(1) 令和2年版経済財政白書の消費に関する分析：「家計部門の動向」を輪読し、消費関数の推計方法を学ぶ。 予復修課題：授業時に指示(予復修目安時間180分)
授業到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ウェブサイトから入手したデータを整理・加工して、図表作成や分析に使うことができる。 Excelで折れ線グラフ、棒グラフ、積み上げ棒グラフ、散布図を作成することができる。 Excelで最小二乗法による推計を実行し、各種の検定統計量を示すことができる。 購読した文献を要約し、PowerPointでプレゼンテーション用資料を作成できる。 				5 プレゼン用資料作成・発表(1) 消費に関する節：前週購読した令和2年版経済財政白書の消費に関する節の要約資料をPowerPointで作成し、プレゼンする。 予復修課題：授業時に指示(予復修目安時間180分)
修了認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係[◎特に関係する ○関係する]					
【知識・技能】 経済・経営学における自身の専門分野の理論的な学問体系の基礎を理解し、当該専門分野の専門知識と技能を身につけている。				○	7 文献購読(2) 令和2年版経済財政白書の分析：「賃金・物価の動向」を輪読し、雇用保蔵者数の推計方法を学ぶ。 予復修課題：授業時に指示(予復修目安時間180分)
【思考力・判断力・表現力】 専門分野の知識・技能を用いて、国内外の社会の発展に貢献できる人材として、経済社会の諸問題に対する課題探求能力、課題解決能力を有するとともに適切な企画・計画力、的確な判断力とそれらを実践できる力を身につけている。また、専門性の高い理論を修得し、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見いだすための指導・教育に寄与する能力を身につけている。				◎	8 プレゼン用資料作成・発表(2) 賃金・物価に関する節：前週購読した経済財政白書の賃金・物価に関する節の要約資料をPowerPointで作成し、プレゼンする。 予復修課題：授業時に指示(予復修目安時間180分)
【主体性・協働性】 専門性を併せ持った経済・生産活動の担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、社会の一員として、自ら進んで他者と協働して経済の発展と社会への貢献に寄与できる力を身につけている。				○	9 Excelによるデータ分析(2) 雇用保蔵者数：前々週購読した経済財政白書の賃金に関する節に掲載されたグラフに倣って、グラフ作成と雇用保蔵者数推定のスキルを習得する 予復修課題：授業時に指示(予復修目安時間180分)
成績評価の方法(全体で100%)		履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合	<ul style="list-style-type: none"> 統計学や計量経済学の基礎部分について、第2回目までに自習しておくことが望ましい。 授業内でExcelやPowerPointを使用する場合はPC実習室もしくは研究室を利用する。 最小二乗法による推計に際しては、Excelに代えて、計量分析ソフトして定評の高いRやE-viewsを使うこともある。 			
1) 小テスト、感想文など	%	アクティブ・ラーニング プレゼンテーション (第5回、第8回、第11回、第13回、第15回) ・修得すべき分析スキルは、教員と受講者とで協議しながら、優先度の順に修得する。			
2. 中間テスト	%				
3. 課題レポートなどの提出物	40 %				
4. 授業中の発表、討論	20 %				
5. 授業への参加意欲	40 %				
6. 自主的学修(予修・復修など)	%				
7.	%				
2) 最終到達度の評価					
1. まとめのテスト	%				
2. 論文、まとめのレポートなど	%				
3.	%				
再評価の実施	する ○ しない				
教科書	令和2年版経済財政白書(内閣府著、日経印刷株式会社)				
参考書					
					10 文献購読(3) 令和2年版経済財政白書及び令和3年版通商白書の財政・金融に関する分析：財政金融面の動向とコロナショック後の世界経済を輪読し、政策対応についての理解を深める。 予復修課題：授業時に指示(予復修目安時間180分)
					11 プレゼン用資料作成・発表(3) 財政・金融に関する節：前週購読した経済財政白書及び通商白書の財政・金融に関する節の要約資料をPowerPointで作成し、プレゼンする。 予復修課題：授業時に指示(予復修目安時間180分)
					12 文献購読(4) 令和2年版経済財政白書の景気循環に関する分析：「今次景気循環の検証」を輪読して、過去の景気循環の特徴を知り、コロナウイルスの景気への影響を理解する。 予復修課題：授業時に指示(予復修目安時間180分)
					13 プレゼン用資料作成・発表(4) 景気循環に関する節：前週購読した経済財政白書の今次景気循環に関する節の要約資料をPowerPointで作成し、プレゼンする。 予復修課題：授業時に指示(予復修目安時間180分)
					14 文献購読(5) 令和2年版経済財政白書の女性の就業に関する分析：第3章「女性の就業と出生を巡る現状と課題」を輪読し、分析手法と分析を通じて得られた知見について学ぶ。 予復修課題：授業時に指示(予復修目安時間180分)
					15 プレゼン用資料作成・発表(5) 女性の就業に関する節：前週購読した経済財政白書の女性の就業に関する章の要約資料をPowerPointで作成し、実際にプレゼンする。 予復修課題：授業時に指示(予復修目安時間180分)

*領域区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

**授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず「UNIVERSAL PASSPORT」で確認してください。

授業科目名 (Subject)	修了研究 I			単位数	授業内容**		
	Research Method I				2		
担当者	岡部 勝成 (OKABE Katsuyoshi)			専任	1	ガイダンスについてシラバスを精読し授業の進展に応じて適宜指示する。また、毎回プレゼンテーション、ディスカッションは実施する。 予復修課題：シラバスを精読し不明な語句やその内容を調べ、まとめる:120分。	
授業形式	演習	科目区分	修了研究科目		2	現代の企業会計についてプレゼンテーション、ディスカッションする。	
配当年次	修士課程1年生	開講学期	前期		予復修課題：作成したレジュメの現代の企業会計を精読し、不明な語句や内容を調べ、まとめる:120分		
授業概要	会計は、①企業などの経済主体や、そのなかで働く人々の活動を一定のメカニズムに従ってさまざまな数値に写しとる行為である。②言語の存在しない世界はなく、企業や産業社会には事業の言語としての会計が存在する。③企業の価値観や判断、戦略を映し出す鏡であり、それを可能にするのが、会計が柔軟な秩序システムを持っているからである。本ゼミでは、上記の3つを基本としてビジネスパーソンに必要な専門的会計知識を文献などから学び課題解決や提言をする。なお、原則毎回担当者は論文等を提出する。				3	企業会計の本質とフレームワークについてプレゼンテーション、ディスカッションする。 予復修課題：作成したレジュメの企業会計の本質とフレームワークを精読し、不明な語句や内容を調べ、まとめる:120分	
	授業到達目標	1. 会計の理論や歴史から実務事例までを理解し課題解決や提言をすることができる。 2. 企業活動への影響を多面的にとらえることができる。 3. 会計の知識をいかに企業価値に向けて戦略的に活用することかを説くことができる。 4. レジュメ作成によるプレゼンテーション能力やディスカッション能力および協調性などの醸成を図ることができる。 5. 修論のテーマを決め、その問題意識と目的を発表し、修論執筆の準備ができる。				4	会計制度の理論と体系についてプレゼンテーション、ディスカッションする。 予復修課題：作成したレジュメ会計制度の理論と体系を精読し、不明な語句や内容を調べ、まとめる:120分
修了認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係[◎特に関係する ○関係する]				5	企業のディスクロージャーについてプレゼンテーション、ディスカッションする。 予復修課題：作成したレジュメ企業のディスクロージャーを精読し、不明な語句や内容を調べ、まとめる:120分		
【知識・技能】	経済・経営学における自身の専門分野の理論的な学問体系の基礎を理解し、当該専門分野の専門知識と技能を身につけている。			◎	6	損益計算書のパラダイムについてプレゼンテーション、ディスカッションする。 予復修課題：作成したレジュメ損益計算書のパラダイムを精読し、不明な語句や内容を調べ、まとめる:120分	
【思考力・判断力・表現力】	専門分野の知識・技能を用いて、国内外の社会の発展に貢献できる人材として、経済社会の諸問題に対する課題探求能力、課題解決能力を有するとともに適切な企画・計画力、的確な判断力とそれらを実践できる力を身につけている。また、専門性の高い理論を修得し、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見いだすための指導・教育に寄与する能力を身につけている。			○	7	経営パフォーマンスの測定と表示についてプレゼンテーション、ディスカッションする。 予復修課題：作成したレジュメ経営パフォーマンスの測定と表示を精読し、不明な語句や内容を調べ、まとめる:120分	
【主体性・協働性】	専門性を併せ持った経済・生産活動の担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、社会の一員として、自ら進んで他者と協働して経済の発展と社会への貢献に寄与できる力を身につけている。			○	8	貸借対照表のパラダイムについてプレゼンテーション、ディスカッションする。 予復修課題：作成したレジュメ貸借対照表のパラダイムを精読し、不明な語句や内容を調べ、まとめる:120分	
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	授業実施方法・内容は追加・変更になることがある。授業には欠席しないよう心掛けること。				
1. 小テスト、感想文など		%					
2. 中間テスト		%					
3. 課題レポートなどの提出物		%					
4. 授業中の発表、討論		40 %					
5. 授業への参加意欲		20 %					
6. 自主的学修(予修・復修など)		%					
7.		%					
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング					
1. まとめのテスト		%	PBL(課題解決型学習など)、事前学習型授業				
2. 論文、まとめのレポートなど		40 %	ディスカッション、プレゼンテーション				
3.		%					
再評価の実施	する	○	しない		10	予復修課題：作成したレジュメ資産の会計を精読し、不明な語句や内容を調べ、まとめる:120分	
教科書	新・現代会計入門(伊藤邦雄著、日本経済新聞出版社)					11	資産の会計についてプレゼンテーション、ディスカッションする。 予復修課題：作成したレジュメ資産の会計を精読し、不明な語句や内容を調べ、まとめる:120分
参考書						12	持分の会計についてプレゼンテーション、ディスカッションする。 予復修課題：作成したレジュメ持分の会計を精読し、不明な語句や内容を調べ、まとめる:120分
					13	持分の会計についてプレゼンテーション、ディスカッションする。 予復修課題：作成したレジュメ持分の会計を精読し不明な語句や内容を調べ、まとめる:120分	
					14	金融商品の会計についてプレゼンテーション、ディスカッションする。 予復修課題：作成したレジュメ金融商品の会計を精読し不明な語句や内容を調べ、まとめる:120分	
					15	金融商品の会計についてプレゼンテーション、ディスカッションする。 予復修課題：作成したレジュメ金融商品の会計を精読し不明な語句や内容を調べ、まとめる:120分	

*領域区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

**授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず「UNIVERSAL PASSPORT」で確認してください。

授業科目名 (Subject)	修了研究 I Research Method I			単位数	授業内容**	
担当者	末木 将史(SUEKI Masachika)			2	専任	1 ガイダンス① 授業の進め方と目標について説明する 予復修課題：修了論文に関係する研究テーマの候補を具体的に考えておくこと。(取組時間0.5h)
授業形式	演習	科目区分	修了研究科目			2 ガイダンス② 研究活動効率化・管理のための手法①ロジカル・シンキング編 予復修課題：基本的なロジカル・シンキング手法を予修・演習し、ソフトをインストールのこと。(取組時間2.0h)
配当年度	修士課程1年生	開講学期	前期			3 ガイダンス③ 研究活動効率化・管理のための手法②プロジェクトマネジメント編 予復修課題：基本的なプロジェクトマネジメント手法を予修・演習し、ソフトをインストールのこと。(取組時間2.0h)
授業概要	修士論文のテーマ設定と研究アプローチを確定することを目的とする。そのため、各研究アプローチについて説明した後、テーマ案を研究していくにあたり、どのアプローチが効果的かを探っていく。なお、アプローチが既に決まっている場合はこの限りではない。取り上げる研究アプローチは、理論・実証・制度研究の3つのいずれかだが、これらに当てはまらない場合（フィールドワーク、数値シミュレーション、事例研究等）は、別途、検討する。なお、制度分析以降については、「修了研究Ⅱ」で取り上げる。					4 テーマ選定のための方法論 研究テーマ案をアカデミックな研究内容にするための方法について説明する 予復修課題：そのテーマ案は、ミクロあるいはマクロ経済学の領域の中ならばどの部分に近いか見当のこと(取組時間2.0h)
授業到達目標	自分の問題意識から研究テーマを設定することができる。 研究アプローチ毎の特徴、できること/できないことを理解することができる。 研究テーマに応じた研究アプローチを選択することができる。					5 研究アプローチ選択のための方法論 授業/どの様な研究アプローチがあるのか、説明。 演習/現時点で構想している研究テーマ、仮説等についての検討プロセスをレポートする 予復修課題：理由を付して自分が採用したいアプローチを提案のこと(取組時間2.0h)
修了認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係[◎特に関係する ○関係する]						
【知識・技能】	経済・経営学における自身の専門分野の理論的な学問体系の基礎を理解し、当該専門分野の専門知識と技能を身につけている。				○	7 研究アプローチ選択のための検討①理論編：検討 理論研究アプローチを採用する場合の大まかな研究ゴールについて討議する 予復修課題：導出したい/証明したい命題を大まかに構想しておく(取組時間2.0h)
【思考力・判断力・表現力】	専門分野の知識・技能を用いて、国内外の社会の発展に貢献できる人材として、経済社会の諸問題に対する課題探求能力、課題解決能力を有するとともに適切な企画・計画力、的確な判断力とそれらを実践できる力を身につけている。また、専門性の高い理論を修得し、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見いだすための指導・教育に寄与する能力を身につけている。				◎	8 研究アプローチ選択のための検討②理論編：モデルの構想 前提条件と命題に則した簡易なモデルを構想する 予復修課題：簡易でもいので数式モデルか論理模型を作成し、説明できるようにしておく(取組時間2.0h)
【主体性・協働性】	専門性を併せ持った経済・生産活動の担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、社会の一員として、自ら進んで他者と協働して経済の発展と社会への貢献に寄与できる力を身につけている。				○	9 研究アプローチ選択のための検討③理論編：モデルの妥当性検討 作成した簡易なモデルを発展できるか、解を得られる可能性があるのか、検討する 予復修課題：モデルの形状、変数の妥当性などを再検討すること(取組時間2.0h)
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項		
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合			PCは授業参加の上で必須です。データ分析以外にも、生産性向上のためのツール(フローチャート作成、マインドマップ、プロジェクト管理など)を使いこなせるようになってもらいます。		
1. 小テスト、感想文など	%					
2. 中間テスト	%					
3. 課題レポートなどの提出物	%					
4. 授業中の発表、討論	30 %					
5. 授業への参加意欲	10 %					
6. 自主的学修(予修・復修など)	20 %					
7. アプリやソフトの活用	20 %					
2) 最終到達度の評価				アクティブ・ラーニング		
1. まとめのテスト	%			ディスカッション、調査学習		
2. 論文、まとめのレポートなど	20 %			毎回、進捗を報告してください。発表資料はGoogle DriveやNotion等をお願いします。他の学生の発表にも積極的な関与をして下さい。		
3	%					
再評価の実施	する ○ しない					
教科書	論理的思考のコアスキル(波頭亮著、ちくま新書)					
参考書	情報分析と課題解決の技法(北門達夫・稲浦綾著)					
						10 研究ゴール等について討議 演習/構想している研究テーマ、仮説等をまとめ提出する。 予復修課題：テーマ案について、理論編同様、実証したい仮説と結論について構想しておく(取組時間2.0h)
						11 研究アプローチ選択のための検討①実証編：データの可用性についての説明 実証したい仮説に必要な変数がデータとして実在するのか、しないのかを確認する。 予復修課題：必要とするデータの種別、粒度を調べておくこと。データ源もリスト化すること。(取組時間2.0h)
						12 研究アプローチ選択のための検討②実証編：データの可用性の検討 調べておいたデータの種別や粒度を基に実証可能性や仮説の修正方針を討議する 予復修課題：データの可用性、または修正方針を踏まえて、実証モデルを構想のこと(取組時間2.0h)
						13 研究アプローチ選択のための検討②実証編：仮説の設定とモデル構築① データの可用性等に基づき、仮説設定とモデル形状(案)の構想を行う 予復修課題：授業での検討結果に基づき、仮説およびモデルの修正を行うこと(取組時間2.0h)
						14 研究アプローチ選択のための検討②実証編：仮説の設定とモデル構築② データの可用性等に基づき、仮説設定とモデル形状(案)の構想を行う(再) 予復修課題：授業での検討結果に基づき、仮説およびモデルの修正を行うこと(再)(取組時間2.0h)
						15 研究アプローチ選択のための検討②実証編：仮説の設定とモデル構築③ 授業/想定結果と検定統計量の対応関係を整理し、仮説が支持されるためのゴールを検討 予復修課題：モデルに応じた検定統計量を構想しておくこと(取組時間2.0h)

*領域区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

**授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず「UNIVERSAL PASSPORT」で確認してください。

授業科目名 (Subject)		修了研究Ⅱ Research Method Ⅱ		単位数	授業内容**		
担当者	甘 長青 (KAN Chousei)			2	1	オリエンテーション(パソコン毎回持参や論文審査の概要説明等) 修士論文作成スケジュール及び現在の進捗状況を確認し、リサーチを実行する。 予復修課題：研究計画の具体化及び論文の執筆作業□取組時間:3時間以上	
授業形式	演習	科目区分	修了研究科目		2	これまでに積み上げてきた研究計画案および研究成果等の発表:研究計画や研究テーマに関する背景や目的、課題等を発表し、指導教員の指摘を受ける。 予復修課題：研究計画の微調整・見直しのほか、これまでのリサーチのまとめ・成果報告の準備。取組時間:3時間以上	
配当年次	修士課程1年生	開講学期	後期		3	研究テーマ・方法の調整・見直し、章節の構成案:必要に応じて、教員・学生による話し合いを踏まえて、研究テーマ・方法を再検討する。 予復修課題：先行研究の要約、現段階の研究進捗状況についての報告の準備等。取組時間:3時間以上	
授業概要	まず修了研究Ⅰで身につけた知識・スキルなどを駆使して、自らの研究領域に関する最新の研究動向を理解し、これらの研究の何が物足りないのかなどといった掘り下げ不十分、もしくはアップデートされていないところを探して自らの研究の意義と目的を見出す。そして、こうした先行研究の不足・欠陥を補うため、自らの研究構想を練り、思いついたところからとにかく書き進める。併せて、研究会・学会発表を通して、様々な意見を広く聴取するだけでなく、場数を踏むことで、効果的な伝え方のスキルを身につけ、今後の研究発表活動に活かしていく。				4	研究テーマ(案)の仮決定、研究計画の立案、論文作成:1年次前期に学んだ内容の習熟度等を踏まえて、今後の研究や執筆計画の詳細を詰める。 予復修課題：指導教員等から指摘のあった箇所での修正、補足の研究調査。取組時間:3時間以上	
					5	修士論文執筆・進捗報告(1) 執筆の進捗状況と内容を報告する。指導教員から助言等を受ける。 予復修課題：指導教員等から指摘のあった箇所での修正、補足の研究調査。取組時間:3時間以上	
授業到達目標	①国際通貨金融や東アジア地域の経済関係を扱う著書・論文等を読み、理解できる。 ②研究文献を読んで概要を把握し、不明点があれば、授業等の際に簡潔に質問できる。 ③研究分野に合わせて、先行研究をリサーチし掘り下げ不十分などの箇所を発見できる。 ④研究課題を見出し、その本質を十分理解した上で、対処方法等を考え出すことができる。 ⑤自らの研究の目的・背景・オリジナリティーを説明し、指導教員等の質疑にも応えられる。				6	修士論文執筆・進捗報告(2) 執筆の進捗状況と内容を報告する。指導教員から助言等を受ける。 予復修課題：指導教員等から指摘のあった箇所での修正、補足の研究調査。取組時間:3時間以上	
					7	修士論文執筆・進捗報告(3) 執筆の進捗状況と内容を報告する。指導教員から助言等を受ける。 予復修課題：指導教員等から指摘のあった箇所での修正、補足の研究調査。取組時間:3時間以上	
修了認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係[◎特に関係する ○関係する]							
【知識・技能】経済・経営学における自身の専門分野の理論的な学問体系の基礎を理解し、当該専門分野の専門知識と技能を身につけている。				◎	8	修士論文執筆・進捗報告(4) 執筆の進捗状況と内容を報告する。指導教員から助言等を受ける。 予復修課題：指導教員等から指摘のあった箇所での修正、補足の研究調査。取組時間:3時間以上	
【思考力・判断力・表現力】専門分野の知識・技能を用いて、国内外の社会の発展に貢献できる人材として、経済社会の諸問題に対する課題探求能力、課題解決能力を有するとともに適切な企画・計画力、的確な判断力とそれらを実践できる力を身につけている。また、専門性の高い理論を修得し、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見いだすための指導・教育に寄与する能力を身につけている。				○	9	修士論文執筆・進捗報告(5) 執筆の進捗状況と内容を報告する。指導教員から助言等を受ける。 予復修課題：指導教員等から指摘のあった箇所での修正、補足の研究調査。取組時間:3時間以上	
【主体性・協働性】専門性を併せ持った経済・生産活動の担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、社会の一員として、自ら進んで他者と協働して経済の発展と社会への貢献に寄与できる力を身につけている。				○	10	修士論文執筆・進捗報告(6) 執筆の進捗状況と内容を報告する。指導教員から助言等を受ける。 予復修課題：指導教員等から指摘のあった箇所での修正、補足の研究調査。取組時間:3時間以上	
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項			
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合	「どうすれば修士論文が上手に書けるか」と、これまで学生からこう質問されたことが何度かある。修了研究(I~IV)という科目の趣旨は正にその答えを見つけることに尽きる。修了研究Ⅰで修得した知識・スキルを持ち、自分なりにアレンジして、しっかり書き進めることが大切である。書く過程でどうすればよいかわからなくなったら、納得するまで教員に聞いてください。					
1. 小テスト、感想文など	%	アクティブ・ラーニング					
2. 中間テスト	%						
3. 課題レポートなどの提出物	30 %						
4. 授業中の発表、討論	%						
5. 授業への参加意欲	%						
6. 自主的学修(予修・復修など)	20 %						
7.	%						
2) 最終到達度の評価		参考書の中に多用されている挿絵・グラフのイメージを踏まえ、ディスカッションをし関係する内容の理解を深める。(第2回~第14回)プレゼンテーション(第14回~第15回)					
1. まとめのテスト	%	事前学習型授業					
2. 論文、まとめのレポートなど	50 %						
3.	%						
再評価の実施	する ○	しない					
教科書							
参考書	未完の人民元改革(関志雄著、文真堂) ドルへの挑戦 Gゼロ時代の通貨興亡(岡部直明著、日本経済新聞出版社) 国際金融の世界(佐久間浩司著、日本経済新聞出版社)				15	1月に予定される修士論文審査委員会構成員の決定に関連し、審査の概要等を説明現段階までの研究の進捗状況についてプレゼンテーションし、指導教員の助言を受ける。 予復修課題：研究の途中経過のまとめとプレゼンテーション資料の準備。取組時間:3時間以上	
						15	これまでのまとめ、今後のスケジュールについての説明 前回のプレゼンテーション時に受けた指摘について、再度プレゼンテーションする。 また、受講者がこれまでの学習・研究成果をまとめたレポートを提出する。□ 予復修課題：指導教員等から指摘・助言のあった箇所での修正、補足の研究調査。取組時間:3時間以上

*領域区分の略号表は巻頭索引ページにあります。 **授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず「UNIVERSAL PASSPORT」で確認してください。

授業科目名 (Subject)		修了研究Ⅱ Research Method Ⅱ		単位数	授業内容**	
担当者		李 只香 (LEE Jihyang)		2	1 ガイダンス (1) 修了研究と修士論文： 今後のゼミの流れを説明し、修士論文作成に必要な学習・研究について説明する。 予復修課題：修了研究Ⅰでの課題をふり返り、学習・研究計画を考えてくること。	
授業形式		演習	科目区分	修了研究科目	専任	
配当年度		修士課程1年生	開講学期	後期	2 ガイダンス (2) 研究の進め方 院生の学修・研究計画を踏まえ、今期の目標を決める。 予復修課題：今期の学習予定の先行研究の内容や研究計画を作成してくること。	
授業概要	経営管理・組織に関連する研究を進めようとする大学院生を対象に、関連の先行研究について学習してもらう。これらを踏まえ研究の焦点を明確にしつつ、焦点ごとに資料収集・調査・分析を行う。それにより、研究の見直しや研究方法の再検討を行うほか、修士論文の章立てなどの構成を行う。さらに、主要な研究焦点についての学習・研究内容をまとめつつ、焦点ごとに必要な図表などの選定と作成を進める。				3 課題考察 (1)： 研究の焦点を明確にしつつ、先行研究の学習から考察する。 予復修課題：指定の先行研究の予修とともに、研究の焦点と関連する考察点をまとめてくること。	
					4 課題考察 (2)： 研究の焦点を明確にしつつ、先行研究の学習から考察する。 予復修課題：指定の先行研究の予修とともに、研究の焦点と関連する考察点をまとめてくること。	
授業到達目標	1. 関連の主要理論の知見が応用できる。 2. 研究方法がわかる。 3. 研究執筆要領がわかる。 4. 表現能力が高められる。				5 課題考察 (3)： 研究の焦点を明確にしつつ、先行研究の学習から考察する。 予復修課題：指定の先行研究の予修とともに、研究の焦点と関連する考察点をまとめてくること。	
					6 課題考察 (4)： 研究の焦点を明確にしつつ、先行研究の学習から考察する。 予復修課題：指定の先行研究の予修とともに、研究の焦点と関連する考察点をまとめてくること。	
修了認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係[◎特に関係する ○関係する]						
【知識・技能】経済・経営学における自身の専門分野の理論的な学問体系の基礎を理解し、当該専門分野の専門知識と技能を身につけている。				◎	7 課題発表 (1)： 先行研究の学習を進めながら、研究の到達点や課題を整理する。 予復修課題：研究目標の見直しを行いつつ、必要な研究課題をまとめてくること。	
【思考力・判断力・表現力】専門分野の知識・技能を用いて、国内外の社会の発展に貢献できる人材として、経済社会の諸問題に対する課題探求能力、課題解決能力を有するとともに適切な企画・計画力、的確な判断力とそれらを実践できる力を身につけている。また、専門性の高い理論を修得し、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見いだすための指導・教育に寄与する能力を身につけている。				○	8 課題発表 (2)： 先行研究の学習を進めながら、研究の到達点や課題を整理する。 予復修課題：研究目標の見直しを行いつつ、必要な研究課題をまとめてくること。	
【主体性・協働性】専門性を併せ持った経済・生産活動の担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、社会の一員として、自ら進んで他者と協働して経済の発展と社会への貢献に寄与できる力を身につけている。				○	9 課題発表 (3)： 先行研究の学習を進めながら、研究の到達点や課題を整理する。 予復修課題：研究目標の見直しを行いつつ、必要な研究課題をまとめてくること。	
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項		
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	1. 自分の問い(知りたいこと)を大事にし、学習の焦点がぶれないように努めてください。			
1. 小テスト、感想文など		%	2. 疑問点は、指導教員にその場で質問するなどし、早期に解消していきましょう。			
2. 中間テスト		%	3. 課題の進捗やまとめのために、4時間以上の学習を行ってください。			
3. 課題レポートなどの提出物		50 %	アクティブ・ラーニング			
4. 授業中の発表、討論		%				
5. 授業への参加意欲		%	プレゼンテーション、事前学習型授業 資料収集や専攻研究の事前学修をしてもらうほか、発表・ディスカッションを行う。また、自分の研究や課題の進捗を論文としてまとめる。			
6. 自主的学修(予修・復修など)		50 %				
7.		%	13 章立て・まとめ (3)：章立てなど論文の構成を考えながら、これまでの学習・研究を文章や図表でまとめる。 予復修課題：これまでの学習をまとめてくること。			
2) 最終到達度の評価						
1. まとめのテスト		%	14 章立て・まとめ (4)：章立てなど論文の構成を考えながら、これまでの学習・研究を文章や図表でまとめる。 予復修課題：これまでの学習をまとめてくること。			
2. 論文、まとめのレポートなど		%				
3.		%	総括： 15 成果(論文の進捗程度)を確認し、今後の課題についてアドバイスする。 予復修課題：今後の課題とその優先順位を考えてくること。			
再評価の実施		する ○ しない				
教科書						
参考書		明石芳彦『社会学系論文の書き方』ミネルヴァ書房 藤本隆宏ほか『経営学研究法』有斐閣アルマ				

*領域区分の略号表は巻頭索引ページにあります。 **授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず「UNIVERSAL PASSPORT」で確認してください。

授業科目名 (Subject)		修了研究Ⅱ Research Method Ⅱ		単位数	授業内容**	
担当者		梅田 勝利 (UMEDA Katsutoshi)		2	1 ガイダンス：シラバスについて説明する。	
授業形式		演習	科目区分	専任	2 予復修課題：予：教科書第1章を読み、不明な語句を調べ、まとめる 復：第1章末尾の演習問題を解き、提出 原価計算の意義、目的、対象：原価計算の意義と目的などについて説明する。	
配当年度		修士課程1年生	開講学期		後期	3 予復修課題：予：教科書第1章を読み、不明な語句を調べ、まとめる 復：第1章末尾の演習問題を解き、提出 原価の諸概念：原価とは何かなどについて説明する。 第1回プレゼンテーションの実施。
授業概要		現代の原価計算の技法と実務について理解する。前半では原価計算の基礎および製品原価算定のための原価計算等について説明する。これによって、原価計算に関する総論的な知識を得ることができる。後半ではマネジメント・コントロールのための原価計算について説明する。これによって、原価計算に関する各論的な知識を得ることができる。			4 予復修課題：予：教科書第2章を読み、不明な語句を調べ、まとめる 復：第2章末尾の演習問題を解き、提出 原価計算と工業財務諸表：製造業と工業簿記などについて説明する。	
授業到達目標		1. 原価計算の意義・目的・必要性等について、説明することができる。 2. 原価計算のフレームワークについて、具体的に述べるができる。 3. 原価計算の技法について、列挙・使用することができる。 4. 原価計算の技法について、経営戦略策定に関係づけることができる。 5. 原価計算の技法について、マネジメント・コントロールに関係づけることができる。			5 予復修課題：予：教科書第3章を読み、不明な語句を調べ、まとめる 復：第3章末尾の演習問題を解き、提出 個別原価計算の基礎：製造原価の計算と個別原価計算などについて説明する。	
修了認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係[◎特に関係する ○関係する]						
【知識・技能】経済・経営学における自身の専門分野の理論的な学問体系の基礎を理解し、当該専門分野の専門知識と技能を身につけている。				◎	7 予復修課題：予：教科書第4章を読み、不明な語句を調べ、まとめる 復：第4章末尾の演習問題を解き、提出 部門別個別原価計算と仕損費、作業屑：部門別個別原価計算などについて説明する。 第2回プレゼンテーションの実施。	
【思考力・判断力・表現力】専門分野の知識・技能を用いて、国内外の社会の発展に貢献できる人材として、経済社会の諸問題に対する課題探求能力、課題解決能力を有するとともに適切な企画・計画力、的確な判断力とそれらを実践できる力を身につけている。また、専門性の高い理論を修得し、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見いだすための指導・教育に寄与する能力を身につけている。				○	8 予復修課題：予：教科書第5章を読み、不明な語句を調べ、まとめる 復：第5章末尾の演習問題を解き、提出 総合原価計算と減損・仕損の処理：総合原価計算の意義と形態などについて説明する。	
【主体性・協働性】専門性を併せ持った経済・生産活動の担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、社会の一員として、自ら進んで他者と協働して経済の発展と社会への貢献に寄与できる力を身につけている。				○	9 予復修課題：予：教科書第6章を読み、不明な語句を調べ、まとめる 復：第6章末尾の演習問題を解き、提出 工程別総合原価計算と組別・等級別・連産品原価の計算：工程別総合原価計算の意義・目的などについて説明する。	
成績評価の方法(全体で100%)		履修における留意事項				
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	事前学習(予修)として、前回の授業において指示された教科書部分を熟読すること。			
1. 小テスト、感想文など		%	事後学習(復修)として、各章末の演習問題を解き、各自が授業内容に照らして、正答を確認しておくこと。			
2. 中間テスト		%	疑問点などがあれば、次回の授業開始時に質問すること。			
3. 課題レポートなどの提出物		%	(予復修課題の取組時間：約4時間程度)			
4. 授業中の発表、討論		40 %				
5. 授業への参加意欲		10 %				
6. 自主的学修(予修・復修など)		%				
7.		%				
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト		%	プレゼンテーション			
2. 論文、まとめのレポートなど		50 %	ミニッツペーパー・レポート			
3.		%				
再評価の実施		する ○ しない				
教科書		原価計算(櫻井通晴著、同文館)				
参考書		管理会計〔第7版〕(櫻井通晴著、同文館)				
		原価計算論〔第3版〕(廣本敏郎・挽文子著、中央経済社)				
		15 予復修課題：予復：教科書第1～13章を読み、不明な語句を調べまとめる。末尾の演習問題を解き、提出				

*領域区分の略号表は巻頭索引ページにあります。 **授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず「UNIVERSAL PASSPORT」で確認してください。

授業科目名 (Subject)		修了研究Ⅱ Research Method Ⅱ		単位数	授業内容**	
担当者	石川 達哉 (ISHIKAWA Tatsuya)			2	1	ガイダンス：ゼミの運営方法、主要な学修課題について説明する。併せて、個人毎の面談を実施し、受講者は実証研究に取り組むテーマや領域の候補について申告する。 予復修課題：授業時に指示(予復修目安時間180分)
授業形式	演習	科目区分	修了研究科目		2	Excelによる分析(1)ジニ係数の計測：Excelを利用して、格差を測る代表的な指標であるジニ係数を求める例題に取り組む。 予復修課題：授業時に指示(予復修目安時間180分)
配当年度	修士課程1年生	開講学期	後期		3	Excelによる分析(2)ダミー変数を用いた回帰分析：Excelを利用して、一時的ダミー、季節ダミー、質的ダミーを含むモデルを最小二乗法によって推定する例題に取り組む。 予復修課題：授業時に指示(予復修目安時間180分)
授業概要	<p>関心のある研究領域について、修了研究Ⅰに引き続き、どのような先行研究がどのような方法で進められてきたかを精査する目的で、日本財政学会や日本地方財政学会の機関誌に採択された論文を文献購読の対象とする。学期末までに研究テーマの候補を絞り込めるように、候補領域における研究論文を収集し、研究動向を理解する。また、先行研究に倣ったデータ分析をExcelのほか、計量分析ソフトして定評の高いR、E-views等で行い、計量経済学的な分析手法に対する理解を深める。</p>				4	Rによる回帰分析(1)：無料のソフトウェアであるRを利用して、外部データファイルの読み込み、最小二乗法によるモデルの推定に取り組む。 予復修課題：授業時に指示(予復修目安時間180分)
					5	文献購読(1)：実証研究を伴った査読付き論文を輪読し、主題と研究の目的、理論的背景や分析手法、利用データ、分析結果、結論に分けて、それぞれ理解する。 予復修課題：授業時に指示(予復修目安時間180分)
授業到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・実証研究論文を読んで、その理論的背景と分析方法を理解し、分析結果の解釈ができる。□ ・RまたはE-viewsで最小二乗法による推計を行い、各種の検定統計量を示すことができる。□ ・RまたはE-viewsで推定したモデルの残差に系列相関や不均一分散がある場合も対処できる。 				6	プレゼン用資料作成(1)：前週購読した実証研究論文に対する討論者になった前提で、討論目的でのプレゼン用資料を作成する。 予復修課題：授業時に指示(予復修目安時間180分)
					7	プレゼンテーション(1)： 前週作成した討論用資料をもとに、討論者としてのプレゼンテーションを行う。 予復修課題：授業時に指示(予復修目安時間180分)
修了認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係[◎特に関係する ○関係する]						
【知識・技能】経済・経営学における自身の専門分野の理論的な学問体系の基礎を理解し、当該専門分野の専門知識と技能を身につけている。				◎	8	文献購読(2)：実証研究を伴った査読付き論文を輪読し、主題と研究の目的、理論的背景や分析手法、利用データ、分析結果、結論に分けて、それぞれ理解する。 予復修課題：授業時に指示(予復修目安時間180分)
【思考力・判断力・表現力】専門分野の知識・技能を用いて、国内外の社会の発展に貢献できる人材として、経済社会の諸問題に対する課題探求能力、課題解決能力を有するとともに適切な企画・計画力、的確な判断力とそれらを実践できる力を身につけている。また、専門性の高い理論を修得し、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見いだすための指導・教育に寄与する能力を身につけている。				○	9	プレゼン用資料作成(2)：前週購読した実証研究論文に対する討論者になった前提で、討論目的でのプレゼン用資料を作成する。 予復修課題：授業時に指示(予復修目安時間180分)
【主体性・協働性】専門性を併せ持った経済・生産活動の担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、社会の一員として、自ら進んで他者と協働して経済の発展と社会への貢献に寄与できる力を身につけている。				○	10	プレゼンテーション(2)： 前週作成した討論用資料をもとに、討論者としてのプレゼンテーションを行う。 予復修課題：授業時に指示(予復修目安時間180分)
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項		
1) 授業到達目標への到達努力の評価	評価割合			・計量経済学の入門編について、自習しておくことが望ましい。□		
1. 小テスト、感想文など	%			・授業内でExcelやPowerPointを使用する場合はPC実習室もしくは研究室を利用する。□		
2. 中間テスト	%			・最小二乗法による推計に際しては、Excelに代えて、計量分析ソフトして定評の高いRやE-viewsを使うこともある。		
3. 課題レポートなどの提出物	40 %					
4. 授業中の発表、討論	20 %					
5. 授業への参加意欲	40 %					
6. 自主的学修(予修・復修など)	%					
7.	%					
2) 最終到達度の評価			アクティブ・ラーニング			
1. まとめのテスト	%			プレゼンテーション(第6回、第7回、第9回、第10回、第12回、第13回)		
2. 論文、まとめのレポートなど	%			・受講者の要望を踏まえつつ、最近の学術研究の動向に注意を払って、購読対象文献を選ぶ。		
3.	%					
再評価の実施	する ○ しない					
教科書						
参考書						
					15	Rによる回帰分析(3)：無料のソフトウェアであるRを利用して、推定モデルの残差の不均一分散に関する検定方法と不均一分散がある場合の対処法を学ぶ。 予復修課題：授業時に指示(予復修目安時間180分)

*領域区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

**授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず「UNIVERSAL PASSPORT」で確認してください。

授業科目名 (Subject)		修了研究Ⅱ Research Method Ⅱ		単位数	授業内容**	
担当者		岡部 勝成 (OKABE Katsuyoshi)		2	1 ガイダンスについてシラバスを精読し授業の進展に応じて適宜指示する。 予復修課題： シラバスを精読し不明な語句や内容を調べ、まとめる:120分。	
授業形式		演習	科目区分	修了研究科目	専任	
配当年度		修士課程1年生	開講学期	後期	2 従業員給付の会計①についてプレゼンテーション、ディスカッションする。 予復修課題： 作成したレジュメの従業員給付の会計①を精読し、不明な語句や内容を調べ、まとめる:120分。	
授業概要	会計は、①企業などの経済主体や、そのなかで働く人々の活動を一定のメカニズムに従ってさまざまな数値に写しとる行為である。②言語の存在しない世界はなく、企業や産業社会には事業の言語としての会計が存在する。③企業の価値観や判断、戦略を映し出す鏡であり、それを可能にするのが、会計が柔軟な秩序システムを持っているからである。本ゼミでは、上記のビジネスパーソンに必要な基礎から応用への専門的会計知識を文献・実務から学び課題解決や提言をする。また、毎回プレゼン、討論は実施する。					
	授業到達目標 1. 会計の理論や歴史から実務事例までを理解し課題解決や提言をすることができる。 2. 企業活動への影響を多面的にとらえることができる。 3. 会計の知識をいかに企業価値に向けて戦略的に活用することかを説くことができる。 4. レジュメ作成によるプレゼンテーション能力やディスカッション能力および協調性などの醸成を図ることができる。 5. 修論のテーマを決め、その問題意識と目的を発表し、修論執筆の準備ができる。					
修了認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係[◎特に関係する ○関係する]						
【知識・技能】経済・経営学における自身の専門分野の理論的な学問体系の基礎を理解し、当該専門分野の専門知識と技能を身につけている。				◎	7 連結グループの会計③と日経記事等についてプレゼンテーション、ディスカッションする。 予復修課題： 作成したレジュメ(持分法の適用等)を精読し、不明な語句や内容を調べ、まとめる:120分。	
【思考力・判断力・表現力】専門分野の知識・技能を用いて、国内外の社会の発展に貢献できる人材として、経済社会の諸問題に対する課題探求能力、課題解決能力を有するとともに適切な企画・計画力、的確な判断力とそれらを実践できる力を身につけている。また、専門性の高い理論を修得し、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見いだすための指導・教育に寄与する能力を身につけている。				○	8 連結グループの会計④についてプレゼンテーション、ディスカッションする。 予復修課題： 作成したレジュメ(セグメントの情報開示等)を精読し、不明な語句や内容を調べ、まとめる:120分。	
【主体性・協働性】専門性を併せ持った経済・生産活動の担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、社会の一員として、自ら進んで他者と協働して経済の発展と社会への貢献に寄与できる力を身につけている。				○	9 企業結合・事業分離等の会計①についてプレゼンテーション、ディスカッションする。 予復修課題： 作成したレジュメ(企業結合の会計等)を精読し、不明な語句や内容を調べ、まとめる:120分。	
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項		
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	授業実施方法・内容は追加・変更になることがある。授業には欠席しないよう心掛けること。			
1. 小テスト、感想文など		%				
2. 中間テスト		%				
3. 課題レポートなどの提出物		%				
4. 授業中の発表、討論		40 %				
5. 授業への参加意欲		20 %				
6. 自主的学修(予修・復修など)		%				
7.		%				
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト		%	PBL(課題解決型学習など)、ディスカッション			
2. 論文、まとめのレポートなど		40 %	プレゼンテーション、事前学習型授業			
3.		%				
再評価の実施		する ○ しない				
教科書		新・現代会計入門(伊藤邦雄著、日本経済新聞社出版社)				
参考書						
				10 企業結合・事業分離等の会計②についてプレゼンテーション、ディスカッションする。 予復修課題： 作成したレジュメ(企業組織再編の税務等)を精読し、不明な語句や内容を調べ、まとめる:120分。		
				11 グローバリゼーションの会計①についてプレゼンテーション、ディスカッションする。 予復修課題： 作成したレジュメを精読し、不明な語句や内容を調べ、まとめる:120分。		
				12 グローバリゼーションの会計②についてプレゼンテーション、ディスカッションする。 予復修課題： 作成したレジュメを精読し、不明な語句や内容を調べ、まとめる:120分。		
				13 戦略的企業価値に向けて(分析のフレームワークと手法)についてプレゼンテーション、ディスカッションする。 予復修課題： 作成したレジュメを精読し、不明な語句や内容を調べ、まとめる:120分。		
				14 戦略的企業価値に向けて(分析のフレームワークと手法)についてプレゼンテーション、ディスカッションする。 予復修課題： 作成したレジュメを精読し、不明な語句や内容を調べ、まとめる:120分。		
				15 戦略的企業価値に向けて(分析のフレームワークと手法)についてプレゼンテーション、ディスカッションする。 予復修課題： 作成したレジュメを精読し、不明な語句や内容を調べ、まとめる:120分。		

*領域区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

**授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず「UNIVERSAL PASSPORT」で確認してください。

授業科目名 (Subject)		修了研究Ⅱ Research Method Ⅱ		単位数	授業内容**	
担当者	末木 将史 (SUEKI Masachika)			2	1 ガイダンス 授業の進め方と目標について説明する 予復修課題： 前期終了時以降の進捗を説明のこと(0.5h)	
授業形式	演習	科目区分	修了研究科目	専任	2 研究アプローチ選択のための検討①制度編：概説 制度研究を志向する際の検討手順を説明する 予復修課題： 関連する先行研究を複数調べておく。うち、1、2本程度の概要を次回発表すること(2.0h)	
配当年度	修士課程1年生	開講学期	後期		3 研究アプローチ選択のための検討②制度編：検討 制度研究アプローチを採用する場合の大まかな研究ゴールについて討議する。 予復修課題： 導出したい/証明したい命題を大まかに構想しておく(2.0h)	
授業概要	修士論文のテーマと内容の決定を目的とした授業を行います。自分の問題意識・関心を、学術的な研究テーマおよび研究アプローチとしての要求水準を満たすレベルまで上げることが授業の内容です。そのために、資料(文献、データ、法令・判例、その他)収集はもちろん、各アプローチ固有の作法の理解、研究ツールの習得なども、併せて自主的に行ってもらいます。			4 研究アプローチ選択のための検討③制度編：検討(続き) 制度前提など制約条件を確認してから、モデル試案を構築する 予復修課題： 簡易でもいいので数式モデルか論理模型を作成し、説明できるようにしておく(2.0h)		
	自分の問題意識から研究テーマを設定することができる。 研究アプローチ毎の特徴、できること/できないことを理解することができる。 研究テーマに応じた研究アプローチを選択することができる。 ロジカル・シンキングとプロジェクトマネジメントの基礎を理解し、運用することができる。			5 研究アプローチ選択のための検討：総まとめ 理論・実証・制度・その他のいずれのアプローチ(組合せ可)を採用するのか決める 予復修課題： 理由をつけて採用候補を選んでおくこと(2.0h)		
授業到達目標				6 先行研究の整理と検討① 先行研究の整理の仕方を説明する。整理軸は視点、論証や証明の方法、結論、限界等 予復修課題： まずは自分なりの整理軸・分類軸を考えておくこと(2.0h)		
修了認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係[◎特に関係する ○関係する]						
【知識・技能】 経済・経営学における自身の専門分野の理論的な学問体系の基礎を理解し、当該専門分野の専門知識と技能を身につけている。				○	7 先行研究の整理と検討② 案出した整理軸・分類軸に従い、先行研究を整理し、コア文献を探す手立てとする 予復修課題： 作成した整理軸・分類軸をメンテナンスしつつ新たな先行研究を整理するために役立てること(2.0h)	
【思考力・判断力・表現力】 専門分野の知識・技能を用いて、国内外の社会の発展に貢献できる人材として、経済社会の諸問題に対する課題探求能力、課題解決能力を有するとともに適切な企画・計画力、的確な判断力とそれらを実践できる力を身につけている。また、専門性の高い理論を修得し、知識基盤社会における多様な課題や解決策を見いだすための指導・教育に寄与する能力を身につけている。				◎	8 主要参考文献の絞り込みに向けて① 収集してきた文献の中から主要になりうるものを絞り込むための論点を整理する 予復修課題： 当該文献のリサーチデザインと結論を報告のこと(2.0h)	
【主体性・協働性】 専門性を併せ持った経済・生産活動の担い手として、自らを律し、主体的に物事を考え、自己の判断と責任を持って行動する力を身につけている。また、社会の一員として、自ら進んで他者と協働して経済の発展と社会への貢献に寄与できる力を身につけている。				○	9 主要参考文献の絞り込みに向けて②(つづき) 収集してきた文献の中から主要になりうるものを絞り込むための論点を整理する 予復修課題： 当該文献のリサーチデザインと結論を報告のこと/あるいは深く分析のこと(2.0h)	
成績評価の方法(全体で100%)				履修における留意事項		
1) 授業到達目標への到達努力の評価		評価割合	PCは授業参加の上で必須です。			
1. 小テスト、感想文など		%	データ分析以外にも、生産性向上のためのツール(フローチャート作成、マインドマップ、プロジェクト管理など)を使いこなせるようになってもらいます。			
2. 中間テスト		%	プログラミングは必須ではありませんが、スプレッドシートは使いこなせることが必須です。			
3. 課題レポートなどの提出物		%				
4. 授業中の発表、討論		30 %				
5. 授業への参加意欲		10 %				
6. 自主的学修(予修・復修など)		20 %				
7. アプリやソフトの活用		20 %				
2) 最終到達度の評価		アクティブ・ラーニング				
1. まとめのテスト		%	毎回、進捗を報告してください。発表資料はGoogle DriveやNotion等をお願いします。			
2. 論文、まとめのレポートなど		20 %	他の学生の発表にも積極的な関与をして下さい。			
3		%				
再評価の実施	する ○ しない					
教科書	情報分析と課題解決の技法(北門達夫・稲浦綾著、大学教育出版)					
参考書	資料検索入門(古市みどり・上岡真紀子・保坂睦著、慶応義塾大学出版会)					
				10 主要参考文献の絞り込みに向けて③(つづき) 収集してきた文献の中から主要になりうるものを絞り込むための論点を整理する 予復修課題： 当該文献のリサーチデザインと結論を報告のこと/あるいは深く分析のこと(2.0h)		
				11 独自性の追求① 主要参考文献に関する分析を踏まえ、自分の研究着眼点や仮説との対比を行う 予復修課題： 主要参考文献との対比を、第7回で行った整理軸・分類軸を用いて行ってもらうこと(2.0h)		
				12 独自性の追求② 独自性のポイント・立脚点を確認する。独自性を確立するための戦略を考える 予復修課題： 独自性の強化・進展のための戦略は、本授業だけでなく以降も考え続けること(2.0h)		
				13 修士論文の題名と構成・目次を確定させる① 構成のフローチャートを基に目次を確定させる 予復修課題： 構成をフローチャート化しておくこと(2.0h)		
				14 修士論文の題名と構成・目次を確定させる② 目次のそれぞれの工数を見積もり、ガントチャートを検討する 予復修課題： 工数の見積もり(パufferなし)しておくこと(2.0h)		
				15 修士論文の題名と構成・目次を確定させる③ 目次を基にガントチャートを確定させる 予復修課題： 単にガントチャートを作成するだけでなく、重点事項や内容の要求水準も考えておくこと(2.0h)		

*領域区分の略号表は巻頭索引ページにあります。

**授業内容は授業の進行状況により変わることがあるので、授業の前後に必ず「UNIVERSAL PASSPORT」で確認してください。